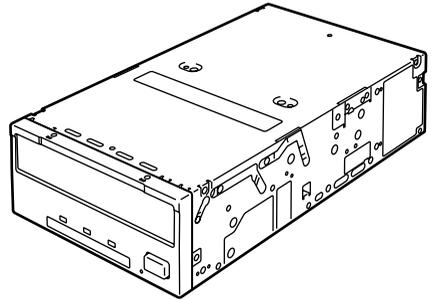
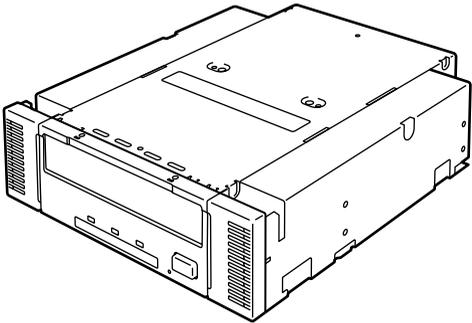


N8151-41/N8151-41F 内蔵AIT/Built-In AIT

取扱説明書 1 ページ
User's Guide Page 45



- 製品をご使用になる前に必ず本書をお読みください。
本書は熟読の上、大切に保管してください。
- Make sure you read this manual before using the product. After reading this manual carefully, store it in a safe place.

商標について

Microsoftとそのロゴ、Windows、およびWindows NTは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Advanced Intelligent Tapeはソニー株式会社の商標です。

記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

サンプルアプリケーションで使用している名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。

海外でのご使用について

この装置は、日本国内での使用を前提としているため、海外各国での安全規格等の適用を受けておりません。したがって、この装置を輸出した場合に当該国での輸入通関および使用に対し罰金、事故による補償等の問題が発生することがあっても、弊社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) NECの許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
- (5) 運用した結果の影響については(4)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

この取扱説明書は、必要とときすぐに参照できるように、お手元に置いておくようにしてください。「使用上のご注意」を必ずお読みください。

使用上のご注意 ~必ずお読みください~

本装置を安全に正しくご使用になるために必要な情報が記載されています。

安全にかかわる表示について

本書にはどこが危険か、指示を守らないとどのような危険に遭うのか、どうすれば危険を避けられるかなどについて説明されています。また、装置内で危険が想定される箇所またはその付近には警告ラベルが貼り付けられています。

本書、および警告ラベルでは危険の程度を表す言葉として、「警告」と「注意」という用語を使用しています。それぞれの用語は次のような意味を持つものとして定義されます。



警告

指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあることを示します。



注意

指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあることを示します。

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味を持つものとして定義されています。

	注意の喚起	この記号は指示を守らないと、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。	(例)  (感電注意)
	行為の禁止	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。	(例)  (接触禁止)
	行為の強制	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。	(例)  (プラグを抜け)

(本書での表示例)

注意を促す記号	危険に対する注意の内容	危険の程度を表す用語
		注意
	<p>電源がONのまま取り付け・取り外しをしない</p> <p>基本処理装置への取り付け・取り外しの際や、周辺機器との接続の際は必ず主電源に接続している電源コードをACコンセントから抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま取り付け・取り外しや接続をすると感電をするおそれがあります。</p>	

本書および警告ラベルで使用する記号とその内容

注意の喚起

	感電のおそれがあることを示します。		発煙または発火のおそれがあることを示します。
	指などがはさまれるおそれがあることを示します。		特定しない一般的な注意・警告を示します。

行為の禁止

	特定しない一般的な禁止を示します。		本装置を分解・修理・改造しないでください。感電や火災のおそれがあります。
---	-------------------	---	--------------------------------------

行為の強制

	本装置の電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電のおそれがあります。		特定しない一般的な使用者の行為を指示します。説明に従った操作をしてください。
---	--	---	--

安全上のご注意

本装置を安全にお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んでご理解し、安全にご活用ください。記号の説明については巻頭の『安全にかかわる表示について』の説明を参照してください。

全般的な注意事項

警告



人命に関わる業務や高度な信頼性を必要とする業務には使用しない
本装置は、医療機器・原子力設備や機器、航空宇宙機器・輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みやこれらの機器の制御を目的とした使用は意図されておりません。これらの設備や機器、制御システムなどに本装置を使用した結果、人身事故、財産被害などが生じても当社はいかなる責任も負いかねます。



煙や異臭、異音が生じたまま使用しない

万一、煙、異臭、異音などが生じた場合は、ただちに基本処理装置の電源をOFFにして電源コードをACコンセントから抜き、本装置のDCケーブルを抜いてください。その後、お買い求めの販売店または保守サービス会社にご連絡ください。そのまま使用すると火災の原因となります。



針金や金属片を差し込まない

通気孔やカートリッジ挿入口から金属片や針金などの異物を差し込まないでください。感電の危険があります。

注意



海外で使用しない

本装置は、日本国内専用の装置です。海外では使用できません。この装置を海外で使用すると火災や感電の原因となります。



装置内に水や異物を入れない

装置内に水などの液体、ピンやクリップなどの異物を入れないでください。火災や感電、故障の原因となります。もし入ってしまったときは、すぐに基本処理装置の電源をOFFにして電源コードをACコンセントから抜き、本装置のDCケーブルを抜いてください。分解しないで販売店または保守サービス会社に連絡してください。

電源・電源コードに関する注意事項



ぬれた手でDCケーブルを持たない

ぬれた手でDCケーブルの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。



電源がONのまま取り付け・取り外しをしない

基本処理装置への取り付け・取り外しの際や、周辺機器との接続の際は必ず主電源に接続している電源コードをACコンセントから抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま取り付け・取り外しや接続をすると感電をするおそれがあります。



中途半端に差し込まない

DCケーブルはしっかりと差し込んでください。中途半端に差し込むと接触不良のため発熱し、火災の原因となることがあります。また差し込み部にほこりがたまり、水滴などが付くと発熱し、火災の原因となるおそれがあります。



指定以外の接続をしない

DCケーブルの接続や配線は本書の説明に従って正しく行ってください。指定以外の接続や配線は火災や感電の原因となるおそれがあります。



破損したケーブルを使用しない

ケーブルを接続する前にコネクタが破損していたり、コネクタピンが曲がっていたり、汚れたりしていないことを確認してください。破損や曲がっているコネクタおよび汚れたコネクタを使用するとショートにより火災を引き起こすおそれがあります。



指定以外のケーブルを使用しない

基本処理装置と接続するケーブルは当社指定のものを使用し、接続先をよく確認してください。指定以外のケーブルを使用したり、指示とは異なる接続のまま使用したりすると火災を引き起こすおそれがあります。

 **注意**



通気孔をふさがない

本装置の前面にある通気孔をふさがないでください。内部の温度が上昇し、誤動作の原因となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。



プラグを差し込んだままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない

インタフェースケーブルの取り付け / 取り外しは基本処理装置の電源コードをコンセントから抜いて行ってください。たとえ電源をOFFにしても電源コードを接続したままケーブルやコネクタに触ると感電したり、ショートによる火災を起こしたりすることがあります。



指定以外のインタフェースケーブルを使用しない

インタフェースケーブルは、NECが指定するものを使用し、接続する装置やコネクタを確認した上で接続してください。指定以外のケーブルを使用したり、接続先を誤ったりすると、ショートにより火災を起こすことがあります。

また、インタフェースケーブルの取り扱いや接続について次の注意をお守りください。

- ケーブルを踏まない。
- ケーブルの上にものを載せない。
- ケーブルの接続がゆるんだまま使用しない。
- 破損したケーブルを使用しない。
- 破損したケーブルコネクタを使用しない。
- ネジ止めなどのロックを確実に行ってください。

お手入れに関する注意事項

警告



自分で分解・修理・改造はしない

本装置の分解や、修理・改造は絶対にしないでください。装置が正常に動作しなくなるばかりでなく、感電や火災の危険があります。

本装置でお客様が行える分解は次の作業のみです。
次に記述する以外の分解は絶対にしないでください。

- ブラケットの取り外し / 取り付け
- DC・信号ケーブルの取り付け / 取り外し



プラグを差し込んだまま取り扱わない

お手入れは、基本処理装置の電源をOFFにして、電源コードをACコンセントから抜き、本装置のDCケーブルを抜いてください。たとえ電源をOFFにしても、電源コードを接続したまま装置内の部品に触ると感電するおそれがあります。

注意



中途半端に取り付けない

DCケーブルやインタフェースケーブルは確実に取り付けてください。中途半端に取り付けると接触不良を起こし、発煙や発火の原因となるおそれがあります。

運用中の注意事項

注意



カートリッジ挿入口に手を入れない

カートリッジ挿入口に手を入れないでください。手を挟まれたり、巻き込まれたりしてけがをすることがあります。



雷がなったら触らない

雷が鳴りだしたら、DCケーブルに触れないでください。感電の原因となります。



ペットを近づけない

本装置にペットなどの生き物を近づけないでください。排泄物や体毛が装置内部に入って火災や感電の原因となります。



近くで携帯電話やPHS、ポケットベルを使わない

本装置のそばでは携帯電話やPHS、ポケットベルの電源をOFFにしておいてください。電波による誤動作の原因となります。

正しく動作させるために

本装置を正しく動作させるために、次の点について注意してください。
AITデータカートリッジの取り扱いに関する注意事項については、「AITデータカートリッジ」の章を参照してください。

本装置のSCSI IDとその他のSCSI機器のSCSI IDが重複しないように設定してください。

誤動作の原因となります。

本装置前面にあるTAPE MOTION LEDが点滅しているときに基本処理装置の電源をOFFにしないでください。

故障、およびバックアップデータの破損の原因となります。

腐食性ガスの発生する場所、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所に保管しないでください。

部品が変形したり傷んだりして正常に動作しなくなるおそれがあります。

強い振動の発生する場所に保管しないでください。

故障の原因となります。

本装置にセットするデータカートリッジには、当社製の「AITデータカートリッジ (型番: EF-2426、EF-2423、EF-2420L、EF-2420)」を使用してください。

当社製以外のデータカートリッジを使用するとリード/ライトエラーを起こすことがあります。

定期的なクリーニングを実施してください。

クリーニングについては、「クリーニング (32ページ)」を参照してください。

本装置のクリーニングには、当社製の「AITクリーニングカートリッジ (型番: EF-3237J)」を使用してください。

当社製以外のクリーナーを使用すると故障の原因となることがあります。

カートリッジを入れたままでの移動はやめてください。

衝撃が加わったとき、装置やカートリッジを傷める原因となります。

本装置を使用していないとき、電源を切るときは、カートリッジを取り出してください。

カートリッジの寿命が短くなったり、誤動作の原因となるおそれがあります。

カートリッジが本装置の挿入口から飛び出している状態で長期間放置しないでください。

カートリッジの寿命が短くなったり、本装置の故障の原因となるおそれがあります。

その他

第三者への譲渡について

本装置を第三者へ譲渡(または売却)される場合には、本書と一緒にお渡しください。

その他の付属品について

その他の付属品もセットアップするときなどに必要となりますので、一緒にお渡しください。

消耗品・装置の廃棄について

本装置、およびカートリッジの廃棄については各自治体の廃棄ルールに従ってください。詳しくは、各自治体へお問い合わせください。

保証について

本装置には『保証書』が添付されています。『保証書』は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容を確認のうえ、大切に保管してください。保証期間中に故障が発生した場合は、『保証書』の記載内容にもとづき無料修理いたします。詳しくは『保証書』をご覧ください。

保証期間後の修理についてはお買い求めの販売店、最寄りのNECまたはNECの保守サービス会社に連絡してください。

はじめに

このたびは、N8151-41 内蔵AITをお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

N8151-41 内蔵AITは、NECのExpress5800シリーズ(サーバ/ワークステーション)をはじめとする「基本処理装置」で使用できる内蔵タイプのデータカートリッジドライブです。

AIT(Advanced Intelligent Tape)カートリッジに対応した高速ドライブは、お客様の大切なデータのバックアップ、運用、管理をよりスムーズにすることでしょう。

本装置の持つ機能を最大限に引き出すためにも、ご使用になる前に本書をよくお読みになり、装置の取り扱いを十分にご理解いただけるようお願い申し上げます。

本書について

本書は、N8151-41 内蔵AITを正しくセットアップし、使用できるようにするための手引きです。内蔵AITのセットアップを行う場合や日常使用する上で、わからないことが起きたときにご利用ください。

本書は、内蔵AITを安全に、正しくお使いになるための事柄(セットアップや日常の取り扱いおよび保守)と内蔵AITで利用できるカートリッジ「AITデータカートリッジ」を正しくお使いになるための事柄(取り扱い方法や保管方法)の2つの章から構成されています。

はじめて取り扱うときの読み方

本製品を梱包箱から取り出して、はじめて取り扱うときは次の順序で本書を参照して、セットアップをしてください。

1. 箱の中身を確認する 箱の中身について(14ページ)
2. 取り扱う上での注意事項を覚える 使用上のご注意(2ページ)
3. 内蔵AITの部品の名前を覚える 各部の名称と機能(18ページ)
4. 取り付け前の設定をする セットアップ(20~25ページ)
5. 基本処理装置に取り付ける セットアップ(26~28ページ)
6. カートリッジの取り扱い方法を覚える .. AITデータカートリッジ(EF-2426、EF-2423、EF-2420L、EF-2420)について(34~39ページ)
7. カートリッジをセットする 取り扱い(29~30ページ)
8. LED表示を確認する 取り扱い(31ページ)
9. 内蔵AITをクリーニングする クリーニング(32~33ページ)

データの保存のしかたやデータの保存形式などの設定については、バックアップソフトに添付の説明書を参照してください。

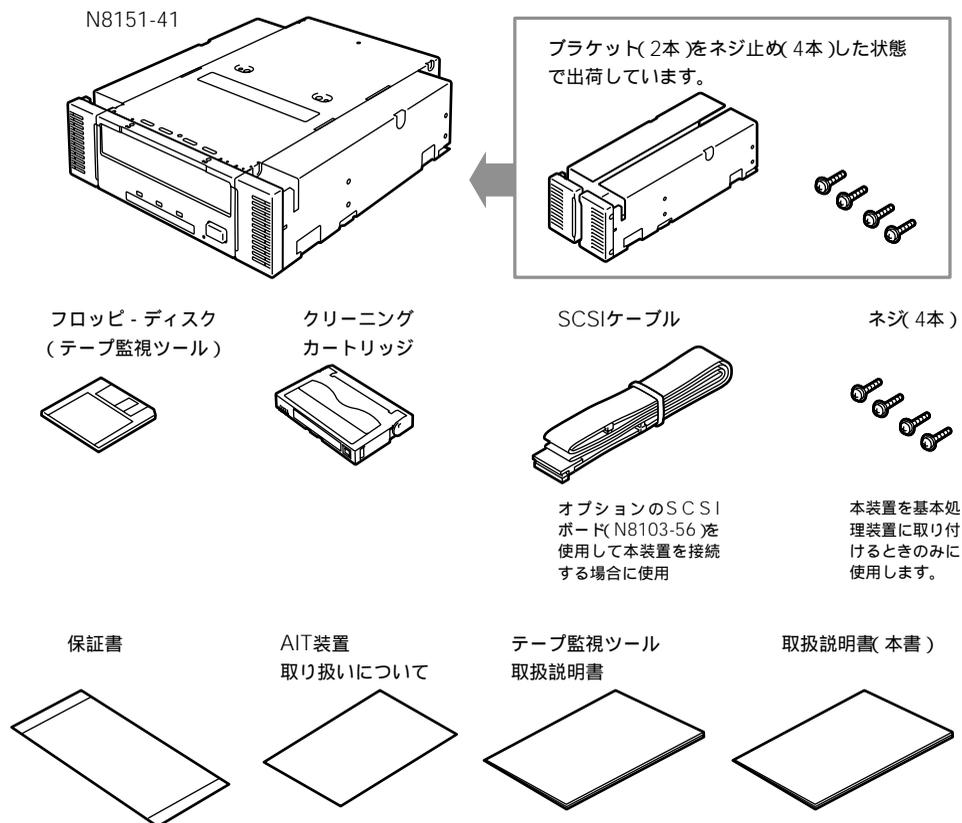
本文中の記号について

本文中では、次の記号を使って運用上の注意やヒントを示しています(安全上の注意事項に関する記号については巻頭の説明をご覧ください)。

 重要	装置の取り扱いや、ソフトウェアの操作で守らなければならない事柄や特に注意をすべき点を示します。
 ヒント	知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

箱の中身について

N8151-41 内蔵AITの梱包箱の中には、内蔵AIT本体以外にいろいろな付属品が入っています。下図を参照してすべてがそろっていることを確認し、それぞれ点検してください。万一足りないものや損傷しているものがある場合は、販売店に連絡してください。



重要

梱包箱や箱の中に入っていた固定用部材は、本装置を取り外して輸送する際に必要となります。大切に保管しておいてください。

接続する環境によっては使用しない部品がありますが、環境が変わったときなどに使用する可能性がありますので、大切に保管してください。

添付のフロppy - ディスクのバックアップをとってください。また、添付のディスクをマスタディスクとして大切に保管し、バックアップディスクを使用してください。

添付の保証書はアフターサービスを受けるときに必要となります。大切に保管しておいてください。

目次

 **使用上のご注意 ~
必ずお読みください~**

内蔵AITについて

商標について	1
安全にかかわる表示について	2
本書および警告ラベルで使用する記号とその内容	3
安全上のご注意	4
正しく動作させるために	9
その他	10
第三者への譲渡について	10
消耗品・装置の廃棄について	10
保証について	10
はじめに	11
本書について	12
はじめて取り扱うときの読み方	12
本文中の記号について	13
箱の中身について	14
特長	17
使用できるカートリッジ	17
各部の名称と機能	18
装置前面	18
装置背面	19
装置底面	19
セットアップ	20
ブラケットの取り外し、取り付け方法	20
内蔵AITの設定 ~ジャンパピンを使った設定~	22
内蔵AITの設定 ~DIPスイッチを使った設定~	24
基本処理装置への取り付け	26
取り扱い	29
AITデータカートリッジのセット	29
AITデータカートリッジの取り出し	30
LED表示	31
データのリード/ライト	31
クリーニング	32
リード/ライトヘッドのクリーニング	32
本体のクリーニング	33

**AITデータカートリッジ
(EF-2426、EF-2423、
EF-2420L、EF-2420)
について**

データカートリッジの各部の名称	34
使用・保管・運搬条件	35
ラベル	35
ラベル貼り付け位置	35
ラベルへの記入上の注意事項	36
ライトプロテクト	36
取り扱い上の注意事項	37
使用上のご注意	37
一般的注意事項	37
使用禁止基準	38
寿命	38
重要なデータの保存について	39
データの3世代管理について	39
データカートリッジの保管について	39
仕 様	40
運用状況お客様記入シート	42

内蔵AITについて

本装置のセットアップから取り付け、日常の取り扱い方法について説明します。

特長

本装置には、次のような特長があります。

Advanced Intelligent Tape (AIT) フォーマットを使ってデータをAIT1/AIT2/AIT3データカートリッジに大容量記録できます。

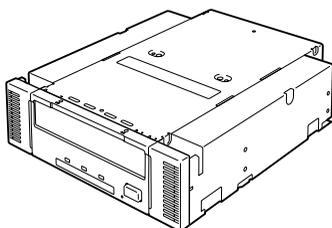
データ圧縮機能*1により、次の容量のデータを記憶できます。

- AIT-3(EF-2426)データカートリッジを使うと、約200Gbyteのデータを記録できます。
- AIT-2(EF-2423)データカートリッジを使うと、約100Gbyteのデータを記録できます。
- AIT-1(EF-2420L)データカートリッジを使うと、約70Gbyteのデータを記録できます。
- AIT-1(EF-2420)データカートリッジを使うと、約50Gbyteのデータを記録できます。

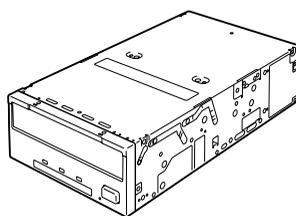
*1 記録されるデータは、データの種類に応じて圧縮率が変動することがあります。(本書では、平均圧縮率を2倍として記載しています)

AITデータカートリッジに記録されているデータが圧縮されているのか、されていないかを自動判別しますので、従来の機器で記録したAITデータカートリッジのデータも、そのまま読み出すことができます。

出荷時は、ドライブ部の両端にブラケットが取り付けられている5.25インチデバイスですが、ブラケットを取り外すことにより、ドライブのみの3.5インチデバイスになります。



5.25インチデバイス実装タイプ(出荷時)



3.5インチデバイス実装タイプ

使用できるカートリッジ

本装置には、当社製AITデータカートリッジ(AIT3:EF-2426(テープ長230m)、AIT2:EF-2423(テープ長230m)、AIT1:EF-2420L(テープ長230m)、EF-2420(テープ長170m))をご使用ください。当社製以外のAITデータカートリッジを使用するとリード/ライトエラーの原因となる場合があります。

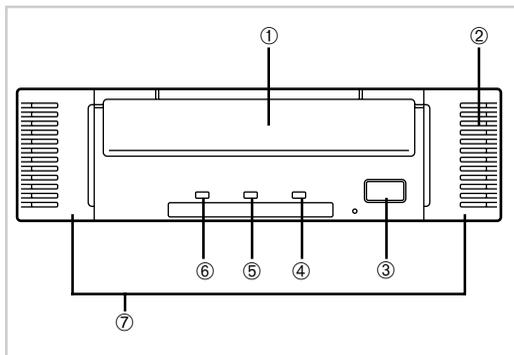
各部の名称と機能

本装置の各部の名称と機能について説明します。

重要

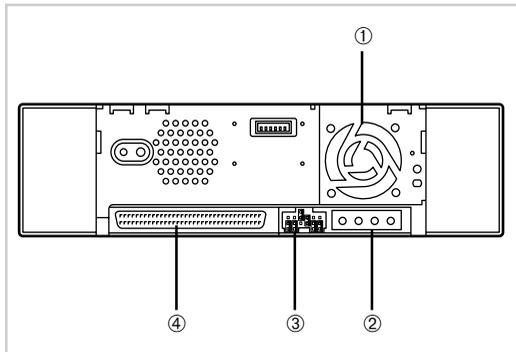
5.25インチデバイスベイ実装タイプと3.5インチデバイスベイ実装タイプ(ドライブ部のみ)の、各部の名称と働きおよび設定方法は、共通です。(以降、本書では、5.25インチデバイスの図を使用して説明します。)

装置前面



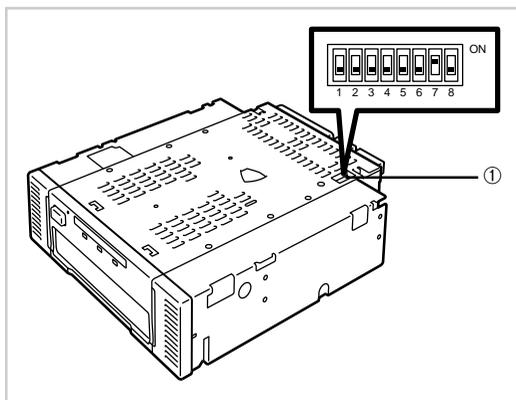
- ① データカートリッジ挿入口
AITデータカートリッジをセットするスロット(29ページ)。
- ② 通風口
(ドライブ部には通風口はありません。)
- ③ EJECTボタン
AITデータカートリッジを本装置から取り出すときに押す(30ページ)。
- ④ REPLACE TAPE LED
AITデータカートリッジの交換を示すLED(31ページ)。
- ⑤ CLEANING REQUEST LED
AITデータカートリッジのクリーニングを示すLED(31ページ)。
- ⑥ TAPE MOTION LED
AITデータカートリッジの状態を示すLED(31ページ)。
- ⑦ ブラケット

装置背面



- ① ファン
本体の内蔵電源ケーブルを接続する
(27ページ)
- ② 電源コネクタ
本体の内蔵電源ケーブルを接続する
(27ページ)
- ③ ジャンパピン
内蔵AITの設定をするピン(22ページ)
- ④ SCSIコネクタ
本体の内蔵SCSIケーブルを接続する
(27ページ)

装置底面



- ① DIPスイッチ
内蔵AITの設定をするスイッチ
(24ページ)

セットアップ

本装置をExpress5800シリーズ装置などの「基本処理装置」に取り付けるまでの手順を説明します。

ブラケットの取り外し、取り付け方法

本装置を3.5インチデバイスで使用するときは、左右のブラケットを取り外します。

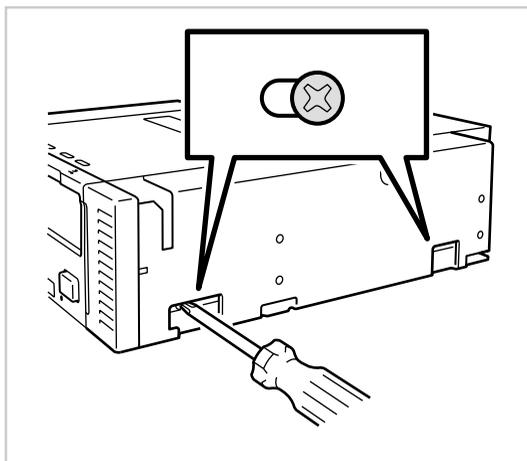
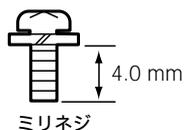
ブラケットの取り外し

プラスドライバを使ってネジを取り外すと、ブラケットが外れます。



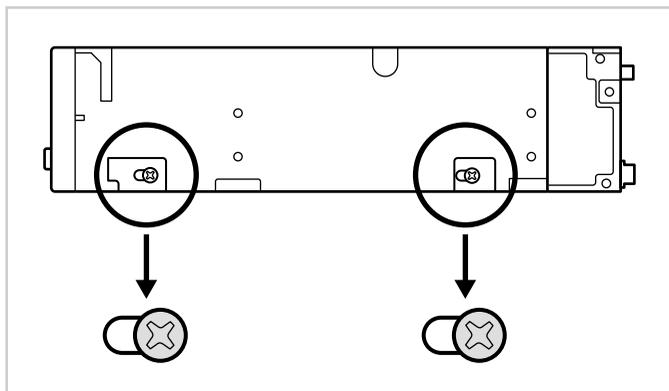
取り外したブラケットとネジは、大切に保管しておいてください。

このネジは、ブラケットを取り付ける時のみに使用します。
このネジはミリネジ(長さ5.0mm、ワッシャより下の長さ4.0mm)です。このネジより長いものを使用すると装置の故障の原因となります。



ブラケットの取り付け

本装置のネジ穴とブラケットの長穴の後部を合わせ、プラスドライバを使ってネジを取り付けます。

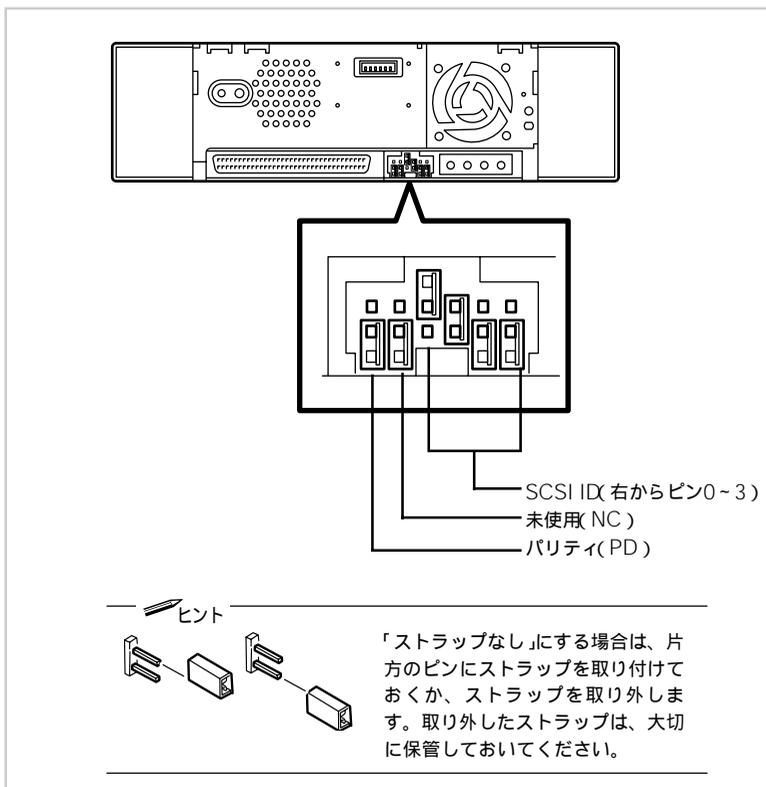


内蔵AITの設定 ~ジャンパピンを使った設定~

本装置の背面にあるジャンパピンでは次の設定を変更することができます。

SCSI ID(工場出荷時の設定は「ID4」)

パリティ機能(工場出荷時の設定は「有効」)

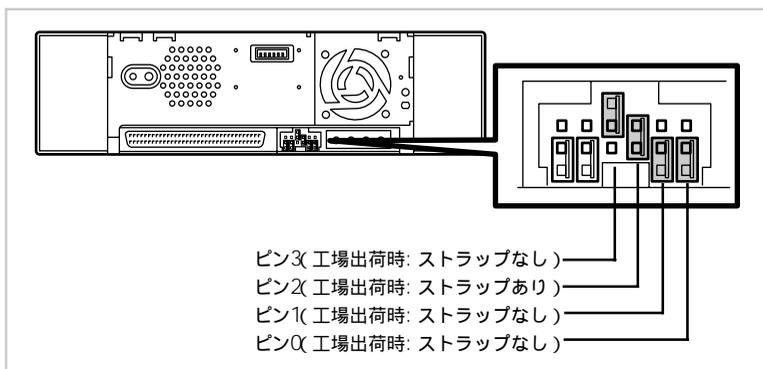


ヒント

ここでの「ストラップあり」とは、2つのピンにストラップを取り付けた状態をさします。また、「ストラップなし」はストラップをピンに取り付けていないか、2つのピンのうち、どちらか一方のピンにのみ取り付けられている状態をさします。

SCSI IDの設定

本装置が使用するSCSI IDを設定します。設定は背面にあるジャンパピンの「ピン0」~「ピン3」の4本のピンを使います。



重要

他のSCSI機器とSCSI IDが重複していないことを確認してください。

SCSI ID	ピン3	ピン2	ピン1	ピン0
0	x	x	x	x
1	x	x	x	
2	x	x		x
3	x	x		
4*1	x		x	x
5	x		x	
6	x			x
7*2	x			
8		x	x	x
9		x	x	
10		x		x
11		x		
12			x	x
13			x	
14				x
15				

ストラップあり

x ストラップなし

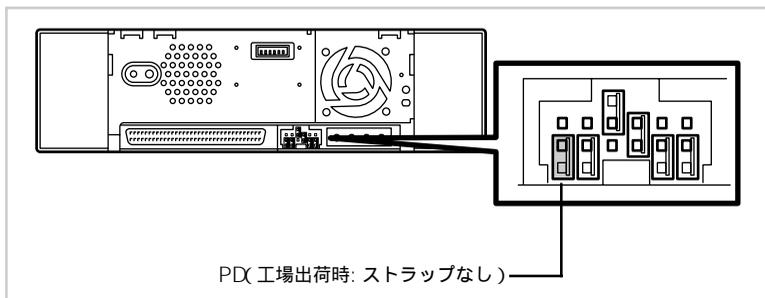
*1 出荷時の設定。

*2 SCSI IDをID7に設定しないでください。

パリティ機能の設定

パリティ機能の設定を設定します。設定は背面にあるジャンパピンの一番左側のピンを使います。

ストラップなしにすると、パリティ機能は「有効」になります(工場出荷時の設定)。ストラップありにするとパリティ機能は「無効」になります。



重要

信頼性を向上させるために、「有効(ストラップなし)」のままで使用してください。

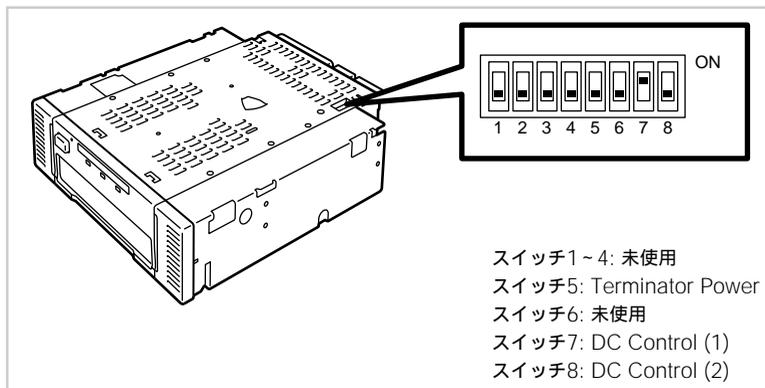
内蔵AITの設定 ~DIPスイッチを使った設定~

本装置の底面にあるDIPスイッチでは次の設定を変更することができます。

Terminator Power(ターミネータ電源供給) (工場出荷時の設定は「OFF」)

DC Control (1) (データ圧縮設定) (工場出荷時の設定は「ON」)

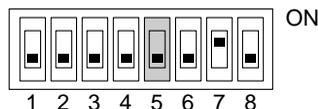
DC Control (2) (データ圧縮設定) (工場出荷時の設定は「OFF」)



ターミネータ電源供給の設定 ~ Terminator Power ~

ターミネータ電源をSCSIバスに供給するか供給しないかを設定します。

設定はスイッチ5を使います。「OFF(工場出荷時の設定)」でターミネータ電源を供給しない設定に、「ON」で供給する設定になります。



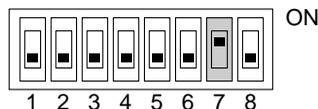
重要

本装置をN8541-28、N8141-28Aデバイス増設ユニットに搭載して、電源連動機能を使用する場合には、出荷時設定(OFF)のままにしてください。

データ圧縮の設定 ~ DC Control (1) ~

本装置が持つデータ圧縮機能を有効にするか無効にするかを設定します。

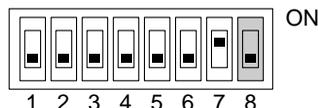
設定はスイッチ7を使います。「ON(工場出荷時の設定)」でデータ圧縮機能を有効にする設定に、「OFF」でデータ圧縮機能を無効にする設定になります。



データ圧縮の設定 ~ DC Control (2) ~

バックアップソフトからデータ圧縮の制御を有効にするか無効にするかを設定します。

設定はスイッチ8を使います。「ON」でバックアップソフトからのデータ圧縮制御を無効にする設定に、「OFF(工場出荷時の設定)」でバックアップソフトからのデータ圧縮制御を有効にする設定になります。



基本処理装置への取り付け



注意



電源がONのまま取り付け・取り外しをしない

本装置の取り付け・取り外しの際や、ケーブルの接続の際は必ず主電源に接続している電源コードをACコンセントから抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま取り付け・取り外しや接続をすると感電をするおそれがあります。

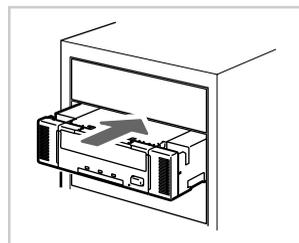
基本処理装置機器等への設置方法例を以下に示します。



ヒント

基本処理装置によってはレールを使用するものもあります。設置方法については、基本処理装置の取扱説明書も参照してください。

1. 下の図の位置にN8151-41内蔵AITを取り付けます。



重要

同一SCSIケーブル上に変換コネクタが取り付けられている場合の注意事項

本内蔵AIT装置を80Mbyte/秒(最大、同期)以上に設定できるSCSIインターフェースに接続した時、同一SCSIケーブル上の他のコネクタに「68ピン(Wide) 50ピン(Narrow) 変換コネクタが取り付けられている場合は変換コネクタを取り外してください。変換コネクタが取り付けられているとSCSIバスの転送レートは40Mbyte/秒(最大、同期)となります。

同一SCSIケーブル上にSingle-ended装置が接続されている場合

本内蔵AIT装置を80Mbyte/秒(最大、同期)以上に設定できるSCSIインターフェースに接続した時、同一SCSIケーブル上の他のコネクタにSingle-ended装置が取り付けられている場合、SCSIバスの転送レートは40Mbyte/秒(最大、同期)となります。

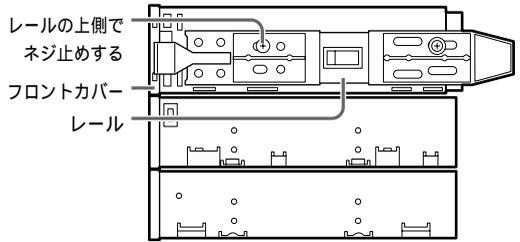
Single-ended装置 : N8151-25 内蔵MO、N8151-12BC 内蔵DAT

重要

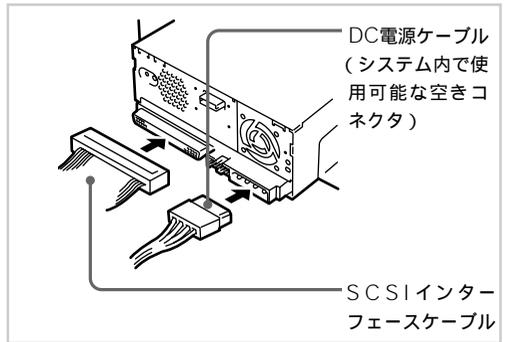
レールを使用する場合には、フロントカバーの面と本体標準設備のCD-ROMドライブなどのフロントカバーが平行になるようにレールの取り付け位置を調節してください。

5.25インチデバイスタイプ、3.5インチデバイスタイプのどちらの場合も使用するネジは同じです。

必ず本装置に添付されているネジを使って固定してください。本装置に添付のネジは、ミリネジ(長さ5.0 mm、ワッシャより下の長さ3.5 mm)です。添付のネジより長いものを使用すると装置の故障の原因となります。



- 下の図のようにインターフェースケーブルを接続してください。



重要

本装置をN8103-56 SCSIコントローラを使用して接続する場合は、必ず本装置添付のSCSIケーブルを使用してください。添付のSCSIケーブルは、N8103-56 SCSIコントローラとの接続以外では使用しないでください。

ただし、内蔵AITをN8100-755/-755PA/-756/-784(Express5800/120Rd-2)、N8100-658A/-685AP1/-658AP2/-667(Express5800/120Rc-2)の本体装置に実装し、N8103-56 SCSIコントローラで接続した場合のみ、本装置添付のSCSIケーブルは使用せず上記本体装置に添付されているSCSIケーブルを使用してください。上記本体装置には内蔵AIT添付のSCSIケーブルを実装できるスペースがありません。

設置の際には、SCSI ID等の各設定の確認をお願いします。

本装置の出荷時のSCSI IDは4に設定されております。他のSCSI IDと重複しないように設定してください。

本装置には、ターミネータ機能はありません。本装置がSCSI接続の最遠端になる場合は、SCSIケーブルの末端にターミネータを取り付けてください。

3. 基本処理装置にカバーを取り付けて、電源コードをコンセントに接続する。
4. 基本処理装置の電源をONにする。
5. SCSIバスの設定が基本処理装置側でできる場合は、本装置について以下のように設定してください。

転送レート: 160Mbyte / 秒 最大、同期)
 データバス幅: 16ビット (Ultra Wide SCSI, LVD/SE)
 DISCONNECT/RECONNECT機能: 有効

本装置の最大転送レートは、160Mbyte / 秒です。160Mbyte / 秒に設定できる基本処理装置は160Mbyte / 秒に設定し、160Mbyte / 秒に設定できない基本処理装置は160Mbyte / 秒未満の最大値に設定してください。

ただし、N8103-56 SCSIボードを使用した場合は、160Mbyte / 秒に設定可能になりますので、160Mbyte / 秒に設定してください。

また、本装置をN8541-28、N8141-28A デバイス増設ユニットに接続する場合は、基本処理装置が160Mbyte / 秒に設定可能な場合でも160Mbyte / 秒に設定せずに、160Mbyte / 秒未満の最大値に設定してください。

詳しくは、基本処理装置に添付の説明書を参照してください。

重要

同一バス上に接続されているデバイス数およびSCSIケーブル長により、下記の通り最大転送レートを設定してください。

SCSI	最大転送レート (Mbyte/s)	データバス幅 (bit)	最大ケーブル長(m)		最大デバイス数 (SCSIホスト+ デバイス数)
			Single-ended	LVD*	
Ultra 160 SCSI	160	16	4	12	16
Ultra 2 Wide SCSI	80	16	-	12	16
Ultra Wide SCSI	40	16	3	-	4
Ultra Wide SCSI	40	16	1.5	-	8
Ultra Wide SCSI	40	16	-	3	16
Fast Wide SCSI	20	16	3	3	16
Wide SCSI	10	16	6	3	8

*SCSIホストおよび同一バス上の全デバイスがLVD対応の場合

取り扱い

本装置の取り扱い方法を説明します。

AITデータカートリッジのセット

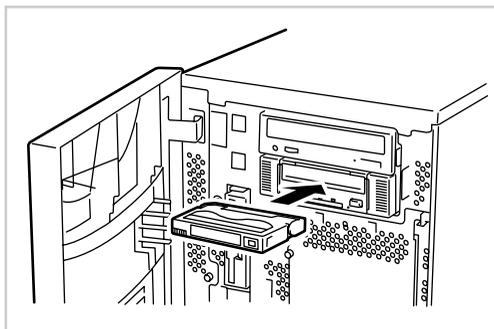
重要

本装置にセットするデータカートリッジには、当社製の「AITデータカートリッジ(型番: EF-2426、EF-2423、EF-2420L、EF-2420)」を使用してください。当社製以外のデータカートリッジを使用するとリード/ライトエラーを起こすことがあります。

データカートリッジをセットしている間は、基本処理装置の電源をOFFにしないでください。誤動作やデータの破壊の原因となります。

1. 基本処理装置の電源をONにした後、本装置のTAPE MOTION LED、CLEANING REQUEST LED、REPLACE TAPE LEDが消灯したことを確認する。
2. AITデータカートリッジを右図の向きにして本装置のデータカートリッジ挿入口に挿入する。

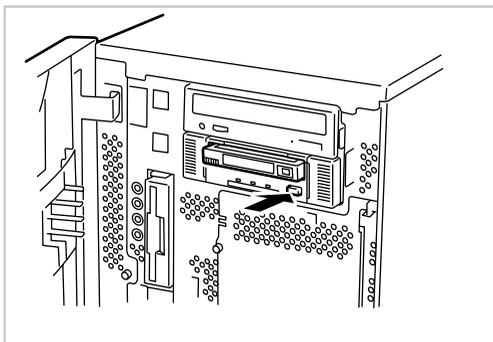
ある程度挿入するとデータカートリッジは自動的に本装置内部にセットされ、TAPE MOTION LEDが点灯します。



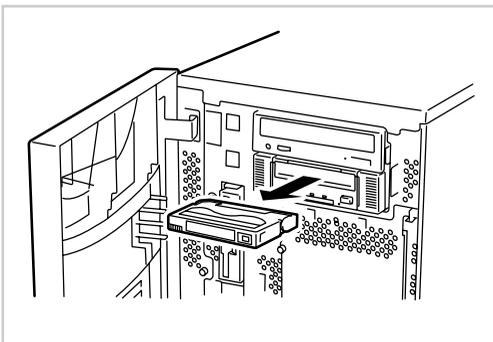
AITデータカートリッジの取り出し

TAPE MOTION LEDが点滅していないことを確認してからEJECTボタンを押します。

テープの巻き戻しが始まります(巻き戻しに数分かかる場合があります)。巻き戻しが終わるとデータカートリッジは自動的に装置内から排出されます。



データカートリッジ挿入口からデータカートリッジを取り出してください。



重要

TAPE MOTION LEDが点滅している間は、基本処理装置の電源をOFFにしないでください。誤動作やデータの破壊の原因となります。

本装置にデータカートリッジを挿入したまま移動しないでください。本装置の故障の原因となります。

LED表示

本装置前面にある3つのLEDで、本装置やAITデータカートリッジの状態を知らせます。

LED	TAPE MOTION	CLEANING REQUEST	REPLACE TAPE
消灯	データカートリッジがセットされていない。	本装置のクリーニングの必要はない。	データカートリッジにエラーは起きていない。
点灯	データカートリッジがセットされている。	本装置のクリーニングが必要である。	データカートリッジにエラーが起きている。
点滅 (Slowly)	セットされているデータカートリッジが正常に動いている (低速)。	ヘッドクリーニング中、クリーニングカートリッジのテープが終了した。	-
点滅 (Fast)	セットされているデータカートリッジが正常に動いている (高速)。	-	-
すべてのLEDが点滅 (Fast)	本装置が故障している。		

点滅 (Fast) : 0.3秒点灯 / 0.3秒消灯

点滅 (Slowly) : 0.9秒点灯 / 0.3秒消灯

データのリード/ライト

AITデータカートリッジからのデータの読み込み(リード)、または書き込み(ライト)の方法については、バックアップソフトに添付の説明書を参照してください。

クリーニング

本装置を常にベストな状態に保つために、定期的にクリーニングをしてください。

リード/ライトヘッドのクリーニング

CLEANING REQUEST LEDが点灯しているときは、本装置内部のリード/ライトヘッドを清掃してください。

添付のクリーニングカートリッジ(EF-3237J)を「取り扱い」の「AITデータカートリッジのセット」で説明している手順で本装置にセットします。

クリーニングカートリッジをセットすると自動的にヘッドのクリーニングが開始されます。

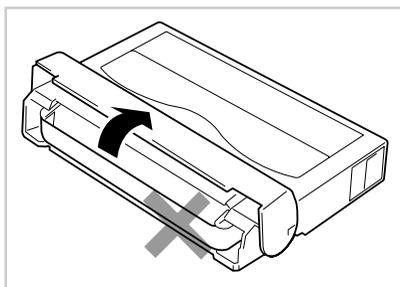
クリーニングが終了すると、自動的にクリーニングカートリッジが出てきます(開始から約35秒後)。クリーニングカートリッジを取り出してください。

重要

本装置のクリーニングには、当社製の「AITクリーニングカートリッジ(型番: EF-3237J)」を使用してください。当社製以外のクリーナーを使用すると故障の原因となることがあります。

クリーニングカートリッジのテープ面を手で触ったり、テープを巻き戻して使用したりしないでください。

クリーニングカートリッジは約70回使用することができます。本装置では、使い切ったクリーニングカートリッジを挿入した場合や、クリーニング中にテープが使い切られたために正常にクリーニングが終了しなかった場合でも、クリーニングカートリッジは自動的に排出されません。このような場合は、EJECTボタンを押して、クリーニングカートリッジを取り出してください。新しいクリーニングカートリッジを別途お買い求めください。



ヒント

リード/ライトヘッドは、1週間に1回、使用前にクリーニングカートリッジで清掃することをお勧めします(使用している環境、チリやホコリの発生状況、や使用回数によって異なりますが、一般的な事務室などで毎日使用する場合、1週間に1回の清掃を目安としてください)。

本体のクリーニング

本装置の外観が汚れたときは、やわらかい布に水または洗剤を含ませて軽く拭いてください。

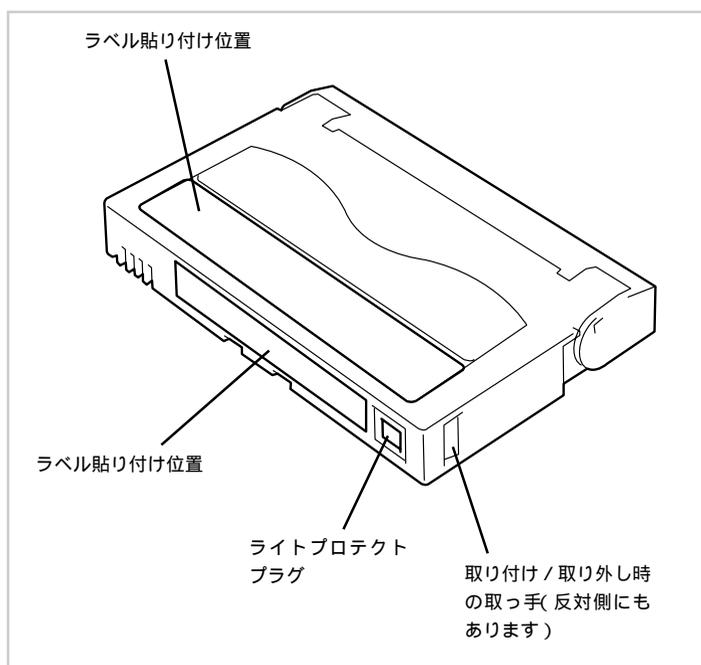
重要

ベンジン、シンナーなど(揮発性のもの)の薬品で拭くと、変形や変色の原因となることがあります。また、殺虫剤をかけた場合も変形や変色の原因となることがあります。薬品が付着したら、早めに水を含ませた柔らかい布で拭き取ってください。

AITデータカートリッジ(EF-2426、EF-2423、EF-2420L、EF-2420)について

AITデータカートリッジの取り扱い方法について説明します。

データカートリッジの各部の名称



使用・保管・運搬条件

使用条件

温度 10～45

湿度 20～80%(ただし、湿球の最高温度は26 とします。)

放置時間 使用および保管環境条件以外の環境にAITデータカートリッジがさらされていた場合には、使用および保管環境条件以外の環境にさらされていた時間より長く(最大8時間)使用環境になじませてから使用してください。温度勾配は10 / 時間とします。

保管条件

温度 5～32

湿度 20～60%(ただし、湿球の最高温度は26 とします。)

保管状態 AITデータカートリッジは、保護ケースに入れて、フタをして保管してください。置き方は水平、垂直どちらでもかまいません。

運搬条件

温度 -40～45

湿度 5～80%(ただし、湿球の最高温度は26 とします。)

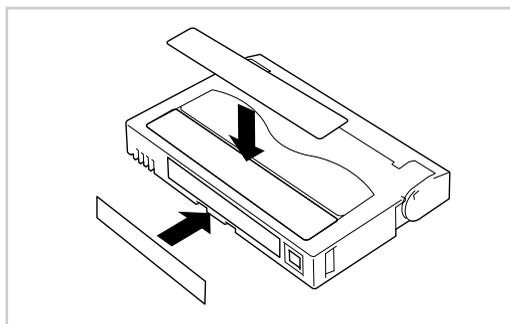
温度勾配 10 / 時間

運搬状態 AITデータカートリッジを保護ケースに収納してください。輸送の場合には、AITデータカートリッジに力が加わらないように包装してください。

ラベル

どのAITデータカートリッジにどのデータをバックアップしているかなどがすぐわかるようにAITデータカートリッジにラベルを貼り付けておくことをお勧めします。

ラベル貼り付け位置



ラベルへの記入上の注意事項

AITデータカートリッジの内容を表示するために用いるラベルは簡単に取り換えることができ、取り外した後に粘着物が残らないようなものを使用してください。

内容の表示を変更するときは、消しゴムで消さず、必ずラベルを貼り替えてください(INDEXラベルはAITデータカートリッジに添付されています)。

ラベルを貼るときは、前項で指定された位置に確実に貼り、さらに取り換える場合は古いラベルを取り除いてから新しいラベルを貼ってください。

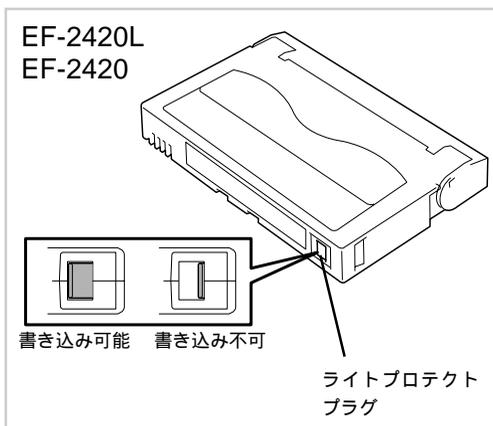
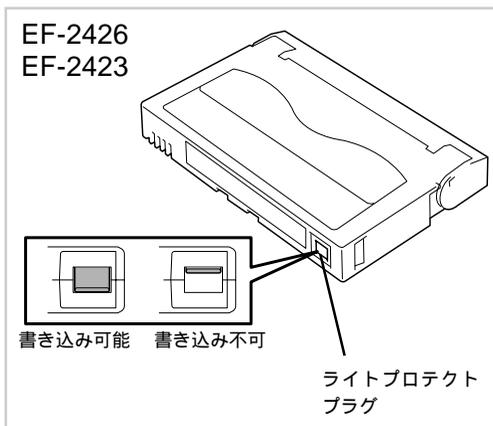
指定のINDEXラベル以外のものを使用する場合は、大きさが合ったものを使用してください。

添付のINDEXラベルには、使用開始年月日を記入してください。AITデータカートリッジの寿命をチェックする目安となります。

ライトプロテクト

ライトプロテクトプラグを右図のように設定すると、テープの内容が保護されます。

書き込んだデータを消去したくないときは、このプラグを「SAFE」側(書き込み不可)に設定してください。また、プラグを「REC」側(書き込み可能)に設定するとテープに書き込み可能となります。



取り扱い上の注意事項

使用上のご注意

使用する前

使用するAITデータカートリッジが、外的損害を受けていたり、または変形したり、曲がっているときは、使用しないでください。

装置の使用温湿度条件以外で保管されていたAITデータカートリッジを使用する場合は、使用温湿度条件以外にあった時間より長く(最大8時間) 使用環境に持ち込んでから使用してください。保管場所と使用場所の温度差が大きい場合は、一度に持ち込むのではなく、温度変化が1時間に10℃以下になるようにして、AITデータカートリッジを使用場所の温度になじませてください。

装置への装着

「AITデータカートリッジのセット」での説明に従ってAITデータカートリッジをセットしてください。AITデータカートリッジを取り出した後の保護ケースは、しっかりと閉じ、チリやホコリの少ない場所で保管してください。

使用した後

使用済みのAITデータカートリッジは、必ず保護ケースに入れてチリやホコリの少ない場所で保管してください。置き方は水平、垂直どちらでもかまいません。

一般的注意事項

テープに手を触れないでください。また、テープカバーを開閉しないでください。

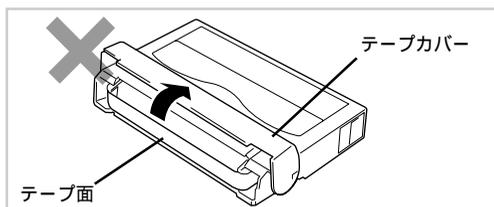
磁気を発生するものを近づけないでください。

直射日光や暖房器具の近くには置かないでください。

強い衝撃を与えないでください。

飲食や喫煙をしながらの取り扱いは避けてください。また、シンナーやアルコールなどを付着させないように注意してください。

装置への挿入は、ていねいに行ってください。



使用禁止基準

以下の項目に該当する場合は、新しいAITデータカートリッジに取り替える必要があります。

落下させるなど強い衝撃を与え、AITデータカートリッジが損傷を受けた場合。

清涼飲料、コーヒー、紅茶など液体、溶剤や金属粉、たばこの灰などで記録面が汚れている場合。

重要

この状態でAITデータカートリッジを装置に挿入するとヘッドや装置を損傷したり、汚したりすることになり、装置の故障の原因となります。また、ヘッドの汚れやキズに気づかず、新しいAITデータカートリッジを装置に挿入すると、AITデータカートリッジを汚したり、傷つけたりして被害を広げることになります。

寿命

AITテープの寿命は、温度・湿度、ヘッドクリーニング回数などによって左右されます。毎日1回使用した場合、使用開始より1年後に交換することをお勧めします。また、1年未満でもエラーが頻繁に発生する場合は、その前に交換をお願いします。

AITデータカートリッジの寿命管理として下記の手順を実施していただくことをお勧めします。

新しいAITデータカートリッジに管理番号を割り当て、その番号をAITデータカートリッジのラベルに記入しておきます。

AITデータカートリッジ管理台帳を作り、使用日を記録し、AITデータカートリッジの使用年数と使用回数を見積もります。

定期的にAITデータカートリッジの管理台帳と標識ラベルを調べ、長く使用されていたり、書き込み、読み取りエラーが発生するなど信頼性が低いAITデータカートリッジを廃棄します。

また、テープ磁性層は、化学物質で構成されており、時間経過と共に劣化します。

この劣化によるテープ寿命は、テープ保管の環境(温度・湿度)により大きく異なりますが、カートリッジを使用していない場合でもテープを購入してから約3年を目安に交換してください。

重要なデータの保存について

重要なデータまたはプログラムなどを保存する場合には、万一の場合に備えて、正副2巻に保存することをお勧めします。

また、保存する際にはバックアップソフトのベリファイ機能を利用し、保存したデータの確認も行うことをお勧めします。ベリファイ機能の利用方法については、各バックアップソフトの取扱説明書を参照してください。

こうしておけば、一方のテープがチリやホコリによるリードエラーを起こしても、もう一方のテープから復旧でき、大切なデータやプログラムの消失を防げます。

データの3世代管理について

ディスク上のデータを保存する場合は、保存したデータの3世代管理をお勧めします。

3世代管理は、テープ3巻(A、B、C)を使用して、ディスク上のデータを1日目はテープAに保存し、2日目はテープBに、3日目はテープCに保存していくものです。

これにより、例えば一巻のテープCがリードエラーを起こした場合には、データBを使用してデータを復旧でき、また、テープBがリードエラーを起こした場合でもテープAのデータを使用して大切なデータを復旧することができます。

データカートリッジの保管について

決められた保管条件を守り、保管場所を常に清潔に保ってください。

書き込みを禁止にしておくことをお勧めします。

長期間にわたって保管する場合は、常にバックアップデータが復旧可能であることを確認するため、定期的にデータの読み出しを行ってください。

万一の場合を想定してシステムから遠く離れた場所に保管しておくことをお勧めします。

正副2巻のデータカートリッジがある場合には、正、副それぞれを異なる場所に保管しておくことさらに効果的です。

仕 様

本装置の仕様について記載します。

性 能
記憶容量

100Gbyte(圧縮時 : 200GbyteEF-2426使用時)
50Gbyte(圧縮時 : 100GbyteEF-2423使用時)
35Gbyte(圧縮時 : 70GbyteEF-2420L使用時)
25Gbyte(圧縮時 : 50GbyteEF-2420使用時)
圧縮時の値は圧縮効率が2倍である場合の値です。
圧縮効率はデータパターンにより変化します。

ビットエラーコード
データ転送速度(TAPE)

10^{-17} 以下
AIT-1 : 8Mbyte / 秒(非圧縮時)
AIT-2 : 12Mbyte / 秒(非圧縮時)
AIT-3 : 12Mbyte / 秒(非圧縮時)

バーストデータ転送速度(SCSI) 160Mbyte / 秒(最大、同期)

接続環境によっては、160Mbyte / 秒に設定できない場合もあります。

イニシャライズ時間

5秒未満

ロード時間

14秒未満 (EF-2426)

アンロード時間

25秒未満 (EF-2426)

巻き戻し時間

105秒未満 (EF-2426)

環境条件

使用時

温度: 10 ~ 40
湿度: 20% ~ 80%(結露なきこと)
最大湿球温度: 26

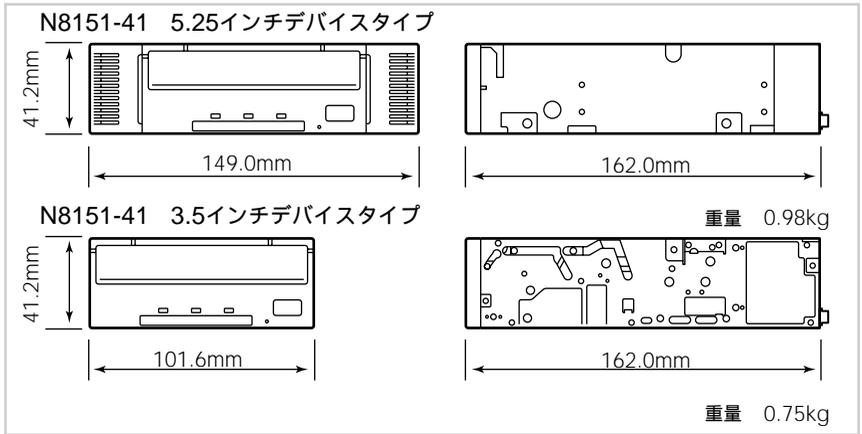
非動作時

温度: - 40 ~ 70
湿度: 5% ~ 95%(結露なきこと)

電源仕様

電圧	5V ± 5%	12V ± 10%
電流(Typ.)	2.5A	0.4A
電流(Max.)	2.9A	2.0A

寸法・重量



運用状況お客様記入シート

本装置を保守・管理する際に必要な情報を記録しておくメモ欄です。

項目	記入欄
基本処理装置モデル名	
オペレーティングシステム(OS) (名称、バージョン、サービス パック/パッチの適用状況)	
バックアップソフト (名称、バージョン、サービス パック/パッチの適用状況)	
SCSIバス構成 (SCSI ID / 同一バス上のデバイ ス) 装置設置環境	
装置設置環境 (温度、湿度、ホコリの状況な ど)	
カートリッジ種類 (メーカー名、EF型番)	
クリーニングカートリッジ種類 (メーカー名、EF型番)	
クリーニングカートリッジ使 用状況(クリーニング周期、使 用回数や使用開始月の管理方 法など)	
カートリッジ使用状況 (使用回数や使用開始月の管理 方法など)	
カートリッジの管理状況	

N8151-41
内蔵AIT取扱説明書

2002年 1月 初版
2002年 2月 第2版

日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目7番1号
TEL(03)3454-1111(大代表)

© NEC Corporation 2002
日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行う
ことはできません。
本書の内容は予告なく変更することがあります。

Printed in Japan

このマニュアルは再生紙を使用しています。

Trademarks

Microsoft, the logo of Microsoft and Windows NT are registered trademarks of the Microsoft Corporation in the United States and other countries.

Advanced Intelligent Tape is a trademark of the Sony Corporation.

The company and product names contained in this manual are trademarks or registered trademarks of the respective companies.

All names used in the sample applications are fictitious. They have no relation with any product, party or individual names.

Remarks

- (1) Reproduction of this document or portions thereof without prior approval is prohibited.
- (2) The information contained in this document is subject to change at any time, without prior notice.
- (3) Reprinting or changing of this document without prior approval of NEC is prohibited.
- (4) All efforts have been made to ensure that the contents of this manual are correct; however, should any doubts arise, or errors or missed entries be detected, NEC would greatly appreciate it if our dealers are informed about it.
- (5) Please note that in no event shall NEC be liable for any damages whatever arising out of the use of this device, regardless of item (4) above.

Keep this User's Guide at hand for quick reference at anytime necessary.

Safety Consideration - Must Read -

Follow the instructions given in this User's Guide for proper operations and safe use of the device.

SAFETY INDICATIONS

This User's Guide describes the device components with possible danger, hazards that may be caused by ignoring warnings, and preventive actions against such hazards. Components with possible danger are indicated with a warning label placed on or around them. In the User's Guide or warning labels, "WARNING" or "CAUTION" is used to indicate a degree of danger. These terms are defined as follows:



Failure to heed this sign could result in serious injury or death.



Failure to heed this sign could result in personal in-jury or damage to properties.

Precautions and notices against hazards are presented with one of the following three symbols. The individual symbols are defined as follows:

	Attention	This symbol indicates the presence of a hazard if the instruction is ignored. An image in the symbol illustrates the hazard type.	(sample)  (Electric shock)
	Prohibited Action	This symbol indicates prohibited actions. An image in the symbol illustrates a particular prohibited action.	(sample)  (Do not touch the part)
	Mandatory Action	This symbol indicates mandatory actions. An image in the symbol illustrates a mandatory action to avoid a particular hazard.	(sample)  (Disconnect the power cord)

(Sample)

A symbol for arousing attention	A content of possible danger	A term indicating a hazard level
	<p>Do not install the device while the power is turned on. Unplug the AC power cord from the main power source when installing/ uninstalling the device to/from basic processing unit or connect it with the enclosure. Failure to follow this warning may cause an electric shock.</p>	 Warning

SYMBOLS USED IN THIS USER'S GUIDE AND WARNING LABELS

Attention

	Indicates that improper use may cause an electric shock.		Indicates that improper use may cause fumes or fire.
	Indicates that improper use may cause fingers to be caught.		Indicates a general notice or warning that cannot be specifically identified.

Prohibited Action

	Indicates a general prohibited action or warning that cannot be specifically identified.		Do not disassemble, repair, or modify the device. Otherwise, an electric shock or fire may be caused.
---	--	---	---

Mandatory Action

	Unplug the power cord. Otherwise, an electric shock or fire may be caused.		Indicates a general mandatory action or warning that cannot be specifically identified.
---	--	---	---

SAFETY NOTES

This section provides several precautions to enable you to use the product safely and correctly and to prevent injury and property damage. Read this section carefully to ensure proper and safe use of the product. For symbols, see "SAFETY INDICATIONS" provided earlier.

General Attention

Warning



Do not use in life-critical applications or applications requiring high reliability.

This device is not intended for integration with or control of facilities or equipment that may affect human life or that require a high degree of reliability, such as medical equipment, nuclear power facilities, aerospace instruments, and transportation equipment. The manufacturer does not assume any liability for accidents resulting in injury or death, or for any damages to property that may occur as a result of using this device in such facilities, equipment, or control systems.



Do not use the Built-in AIT if any smoke, odor, or noise is present.

If smoke, odor, or noise is present, immediately turn off the POWER switch and disconnect the power plug from the outlet, then contact your sales agent. Using the Built-in AIT in such conditions may cause a fire.



Keep needles or metal objects away from the Built-in AIT.

Do not insert needles or metal objects into ventilation holes in the Built-in AIT. Failure to follow this warning may cause an electric shock.

Caution



Keep water or foreign matter away from the Built-in AIT.

Do not let any kind of liquid (water etc.) or foreign matter (e.g., pins or paper clips) enter the Built-in AIT. Failure to follow this warning may cause an electric shock, a fire, or a failure of the Built-in AIT. When such things accidentally enter the Built-in AIT, immediately turn off the power and disconnect the power plug from the outlet. Do not disassemble the Built-in AIT. Contact your sales agent.

Attention to Power or Power Cord



Warning



Do not hold the DC cable with a wet hand.

Do not disconnect/connect the cable while your hands are wet. Failure to follow this warning may cause an electric shock.



Caution



Do not install the device while the power is turned on.

Unplug the AC power cord from the main power source when installing/ uninstalling the device to/from basic processing unit or connect it with the enclosure. Failure to follow this warning may cause an electric shock.



Insert the DC cable into the outlet as far as it goes.

Heat generation resulting from a halfway inserted DC cable (imperfect contact) may cause a fire. Heat will also be generated if condensation is formed on dusty blades of the halfway inserted cable, increasing the possibility of a fire.



Do not connect the Built-in AIT by unspecified cabling.

Connecting or cabling with DC cable should be done in accordance with the procedure specified in the User's Guide. Unspecified connecting or cabling may cause an electric shock or a fire.



Do not use any damaged power cord.

If the power cord is damaged, immediately replace it with a new part of same type. Do not repair the damaged section for reuse. Otherwise, the section repaired with vinyl tape or the like will be overheated to cause an electric shock or a fire.



Use the authorized cable only.

Use only the specified cable when connecting the Built-in AIT with a basic processing unit. Use of an unspecified cable or connection by unspecified cabling may cause a fire.

Attention to Installing, Moving, Storing, Connection



Do not close the ventilation hole.

Do not close the ventilation hole in the front side of the Built-in AIT. Otherwise, its internal temperature will rise to cause malfunctions or a fire.



Do not connect/disconnect the interface cables before unplugging the power plug.

Before connecting/disconnecting the interface cables, disconnect the power plug of the main power unit from the outlet. If the power is off but the power plug is still connected, you may get an electric shock.



Do not use the unspecified interface cables.

Use only the cable authorized by NEC and locate the device and connector before connection. Use of an unauthorized cable or displaced connection may cause a short circuit, resulting in a fire.

When handling or connecting the interface cables, keep the notes as follows:

- Do not tread on cables.
- Do not load on the cable.
- Insert the cable connector as far as it goes.
- Do not use damaged cables.
- Do not use damaged connectors.
- Make sure that screwing or the like be done firmly.

Attention to Handling or Maintenance



Warning



Do not disassemble, repair, or alter the Built-in AIT.

Never attempt to disassemble, repair, or alter the Built-in AIT on any occasion other than described in this User's Guide. Failure to follow this instruction may cause an electric shock or a fire as well as malfunctions of the Built-in AIT.

The following can be performed by the Built-in AIT user. Do not perform any other type of disassembly than described here.

- Remove or install brackets
- Remove or install the DC signal cable



Do not handle while the power plug is connected.

Before handling or cleaning the Built-in AIT, disconnect the power plug of the main power unit from the outlet. If the power is off but the power plug is still connected, you may get an electric shock.



Caution



Insert the cables into the connectors as far as it goes.

Heat generation resulting from a halfway inserted cables or Interface cables (imperfect contact) may cause a fire. Heat will also be generated if condensation is formed on dusty blades of the halfway inserted cable, increasing the possibility of a fire.

Attention to Operation



Do not insert your hands into the cartridge load compartment.

Do not insert your hands into the cartridge load compartment. Otherwise, the fingers will be caught/pinched by the Built-in AIT to cause an injury.



Do not touch the Built-in AIT when it thunders.

If it starts thundering, do not touch any part of the Built-in AIT. Failure to follow this warning may cause an electric shock or a fire.



Keep away pets.

Keep away pets from the Built-in AIT. Insertion their hair or excrements may cause a fire or an electric shock.



Do not use a cellular phone or a pager

Turn off the power of the cellular phone or a pager. Otherwise, malfunction may be caused.

For Correct Operation

To operate the N8151-41F Built-In AIT correctly, observe the following points. For considerations on handling the AIT data cartridge, refer to the chapter “AIT Data Cartridge”.

- Set the N8151-41F Built-In AIT’s SCSI ID so that it will not duplicate with SCSI ID of other SCSI equipment.
→ Otherwise, an operation error will occur.
- When N8151-41F Built-In AIT is a termination of the SCSI connection, set the terminal resistance to ON using its DIP switch.
→ Otherwise, an operation error will occur.
- Do not turn off the basic processing unit when the TAPE MOTION LED on the front of the Built-In AIT is blinking.
→ This may cause a machine failure or damage of backup data.
- Do not use a portable phone near the Built-In AIT.
→ This may cause a machine failure.
- Do not store the Built-In AIT in a place exposed to direct sunlight.
→ The Built-In AIT may not be able to operate correctly.
- Do not store the Built-In AIT in a place subject to corrosive gas, chemicals or splash of chemicals.
→ A Built-In AIT part may be deformed or damaged and may not be able to operate correctly.
- Do not store the Built-In AIT in a place subject to strong vibrations.
→ This may cause a machine failure.
- Do not put a thing on the Built-In AIT when using or storing it.
→ This may cause a machine failure.
- As the data cartridge set in the Built-In AIT, use our “AIT Data Cartridge (model: AIT3, AIT2, AIT1)”.
→ If you use a data cartridge of other manufacturer, a read/write error may occur.
- Clean the Built-In AIT on a regular basis.
→ For details about cleaning the Built-In AIT, see “Cleaning” (page 76).
- When cleaning the Built-In AIT, use our “AIT Cleaning Cartridge”.
→ If you use a cleaner of other manufacturer, a machine failure may occur.

Others

Transfer to a third party

When you transfer (or sell) the N8151-41F Built-In AIT to a third party, be sure to include the instruction manual.

Other accessories

Accessories accompanying the N8151-41F Built-In AIT are necessary during setup and other procedures, therefore be sure to include them.

Disposal of consumed parts and equipment

For the disposal of the N8151-41F Built-In AIT and its cartridge, observe the waste disposal rules of your local government. For details, contact the local government office.

Introduction

Thank you for purchasing the N8151-41F Built-In AIT.

The Built-In AIT will ensure smooth backup, application and management of your important data.

To maximize the N8151-41F Built-In AIT functions, please read the instruction manual carefully before use and fully understand how to handle the device.

Organization of the Instruction Manual

The instruction manual function as a guide that enables you to set up and use the N8151-41F Built-In AIT correctly. You can refer to this manual whenever you encounter a question or problem during setup and daily operation.

The instruction manual consists of two chapters: the first covers the considerations on the safe use of the Built-In AIT (setup, daily operation and maintenance) and the second covers the considerations on the safe use of the AIT data cartridge available on the Built-In AIT (operation and maintenance).

Order of priority when the N8151-41F Built-In AIT is used for the first time

When the Built-In AIT is being used first time, refer to the instruction manual in the following sequence to perform the setup after unpacking the driver.

1. Check the contents in the package. Package Contents (→P. 58)
2. Learn the operational precaution. Safety Consideration (→ P. 46)
3. Learn the parts of the Built-In AIT Part Name and Function (→ P. 62)
4. Set before installation. Setup (→ P. 64 to 69)
5. Install the driver in the basic processing unit. Setup (→ P. 70 to 72)
6. Learn how to handle the cartridge AIT Data Cartridge (→ P. 78 to 83)
7. Set the cartridge. Handling (→ P. 73 to 74)
8. Check the LED indication. Handling (→ P. 75)
9. Clean the Built-In AIT. Cleaning (→ P. 76 to 77)

For details on data storage methods and settings, such as data save format, refer to the instruction manual provided with the backup software.

Symbols Used in This Text

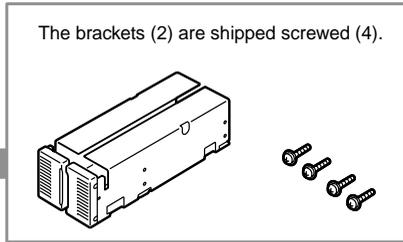
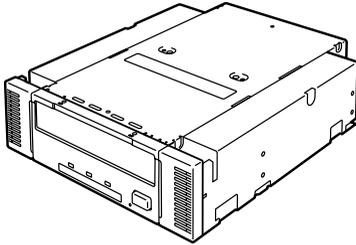
The following symbols are used in this text to indicate cautions and notes concerning the operation of this device. (Refer to the beginning of this document for an explanation of the symbols used for safety-related cautions.)

 Important	This symbol indicates important information concerning the handling of the device or the operation of the software.
 Hint	Indicates useful information and operational help.

Package Contents

Many accessories are included with the Built-In AIT in the N8151-41F Built-In AIT. Verify the packed contents with the part list given below and ensure that all the components and parts are present. Also, check that each item is undamaged. If a component or part is missing or damaged, contact your dealer.

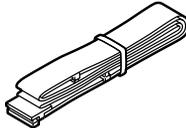
N8151-41F



Cleaning cartridge



SCSI cable



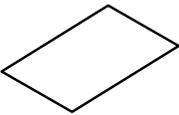
* Used to connect to the Built-In AIT when using the optional SCSI board (N8103-56F).

Screws (4)



* Only use when installing the device on the basic processing unit.

Instructions on handling the AIT unit



Instruction manual (this manual)



Important

- Locking parts contained in the package or box will be required when removing the Built-In AIT for transportation. Store them securely.
 - Depending on the environment connected to, some parts may not be usable. However, when the environment is changed, these parts may become usable, therefore store them securely.
-

Table of Contents

Safety Consideration - Must Read -

Trademarks	45
SAFETY INDICATIONS	46
SYMBOLS USED IN THIS USER'S GUIDE AND WARNING LABELS	47
SAFETY NOTES	48
For Correct Operation	53
Others	54
Transfer to a third party	54
Disposal of consumed parts and equipment	54
Introduction	55
Organization of the Instruction Manual	56
Order of priority when the N8151-41F Built-In AIT is used for the first time	56
Symbols Used in This Text	57
Package Contents	58

Built-in AIT

Features	61
Usable Cartridges	61
Part Name and Function	62
Front	62
Rear	63
Bottom	63
Setup	64
Removing and installing the brackets	64
Setting the Built-In AIT - Setting with the jumper pins -	66
Setting the Built-In AIT - Setting with the DIP switch -	68
Mounting on the basic processing unit	70
Handling	73
Setting the AIT data cartridge	73
Ejecting the AIT data cartridge	74
LED indication	75
Reading/writing data	75
Cleaning	76
Cleaning the read/write head	76
Cleaning the Built-In AIT	77

AIT Data Cartridge

- Data Cartridge Part Name and Function 78
- Operation, Storage and Transportation
 - Requirements 79
- Label 79
 - Label paste position 79
 - Precautions on entry to label 80
- Write-protect 80
- Precautions on Handling 81
 - Operational precautions 81
 - General precautions 81
- Usage Inhibition Standard 82
- Service Life 82
- Storing Important Data 83
- Managing 3-generation Data 83
- Data cartridge storage 83

- Specifications 84
- Customer's Application Sheet 86

Built-in AIT

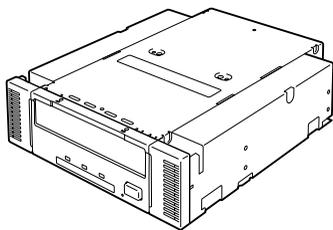
This chapter explains setup, installation and daily operation of the N8151-41F Built-In AIT.

Features

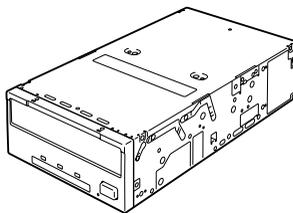
This unit has the following features:

- You can record large amounts of data on the AIT1, AIT2 and AIT3 data cartridges using AIT (Advanced Intelligent Tape) format.
- When using the data compression function^{*1}, the following volumes of data can be stored.
 - With an AIT3 (tape length: 230 m) data cartridge, about 200 GB
 - With an AIT2 (tape length: 230 m) data cartridge, about 100 GB
 - With an AIT1 (tape length: 230 m) data cartridge, about 70 GB
 - With an AIT1 (tape length: 170 m) data cartridge, about 50 GB

^{*1} The compression rate for recorded data may differ depending on the type of data.
(In this manual, an average compression rate of 2 is used.)
- The basic processing unit automatically determines whether data recorded on the AIT data cartridges is compressed. It can also read data recorded on AIT data cartridges with conventional AIT drives.
- Upon shipment, the 5.25-in device comes with brackets installed at both ends of the drive. Removing the brackets makes the drive only a 3.5-in device.



5.25-in device, installed (Upon shipment)



3.5-in device, installed

Usable Cartridges

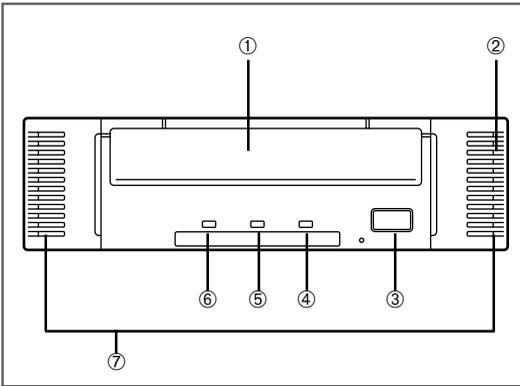
Please use Sony AIT data cartridges (AIT3 (tape length: 230 m), AIT2 (tape length: 230 m), or AIT1 (tape length: 230 m), (tape length: 170 m)) with this unit. Using other types of AIT data cartridges may cause read and write errors.

Part Name and Function

The Built-In AIT and magazine have the following parts and functions.

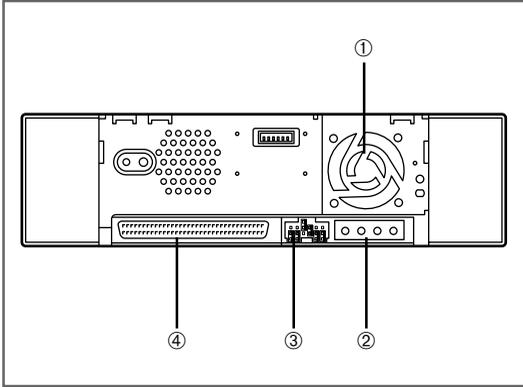
The part names, functions, and settings of the installed 5.25-in device and installed 3.5-in device (drive only) are the same. (For clarity, we use the 5.25-in device in the explanations below.)

Front



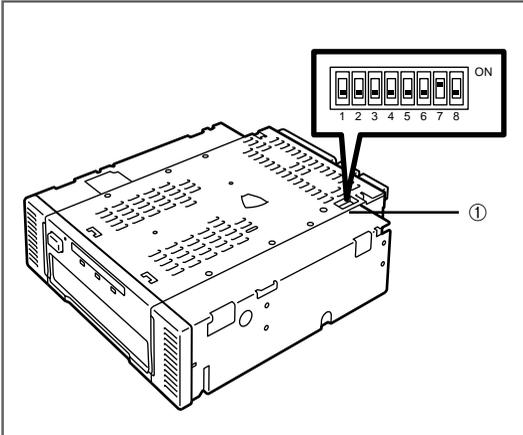
- ① Data cartridge slot
A slot in which the AIT cartridge is set
(→ P. 73)
- ② Ventilation holes
(The drive does not have ventilation holes.)
- ③ EJECT button
Press this button when ejecting the AIT cartridge from the Built-In AIT.
(→ P. 74)
- ④ REPLACE TAPE LED
Shows the replacement status of the AIT data cartridge. (→ P. 75)
- ⑤ CLEANING REQUEST LED
Shows the cleaning status of the AIT data cartridge. (→ P. 75)
- ⑥ TAPE MOTION LED
Shows the status of the AIT data cartridge. (→ P. 75)
- ⑦ Brackets

Rear



- ① Fan
- ② Power connector
Connect the Built-In AIT's built-in power cable. (→ P. 71)
- ③ Jumper pin
Pins which set the Built-In AIT (→ P. 66)
- ④ SCSI connector
Connect the Built-In AIT's built-in SCSI cable. (→ P. 71)

Bottom



- ① DIP switch
Switches which set the Built-In AIT (→ P. 68)

Setup

The procedure up to installation of the Built-In AIT to the “basic processing unit” is explained in the following.

Removing and installing the brackets

When you want to use the Built-In AIT as a 3.5-in device, you need to remove the left and right brackets.

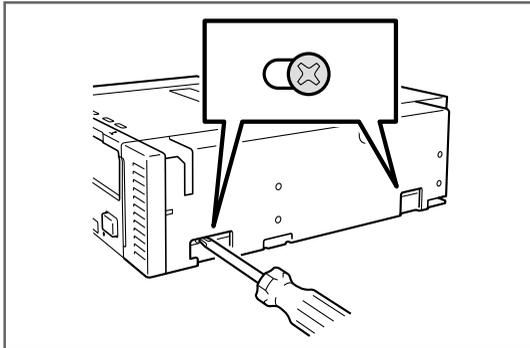
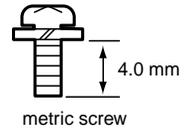
To remove the brackets

Using a Phillips screwdriver, remove the screws, and then the brackets.



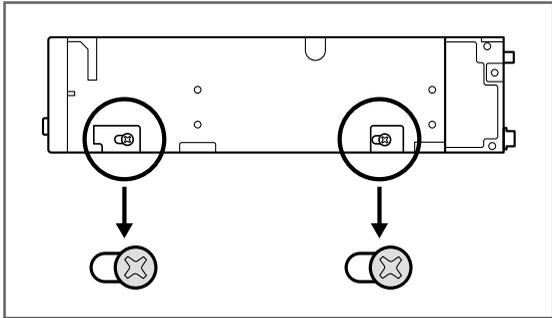
Important

- Make sure that you store the brackets and screws in a safe place.
- Only use these screws when installing the brackets. They are metric screws (length: 5.0 mm; length below washer: 4.0 mm). Using longer screws could result in damage to the device.



To install the brackets

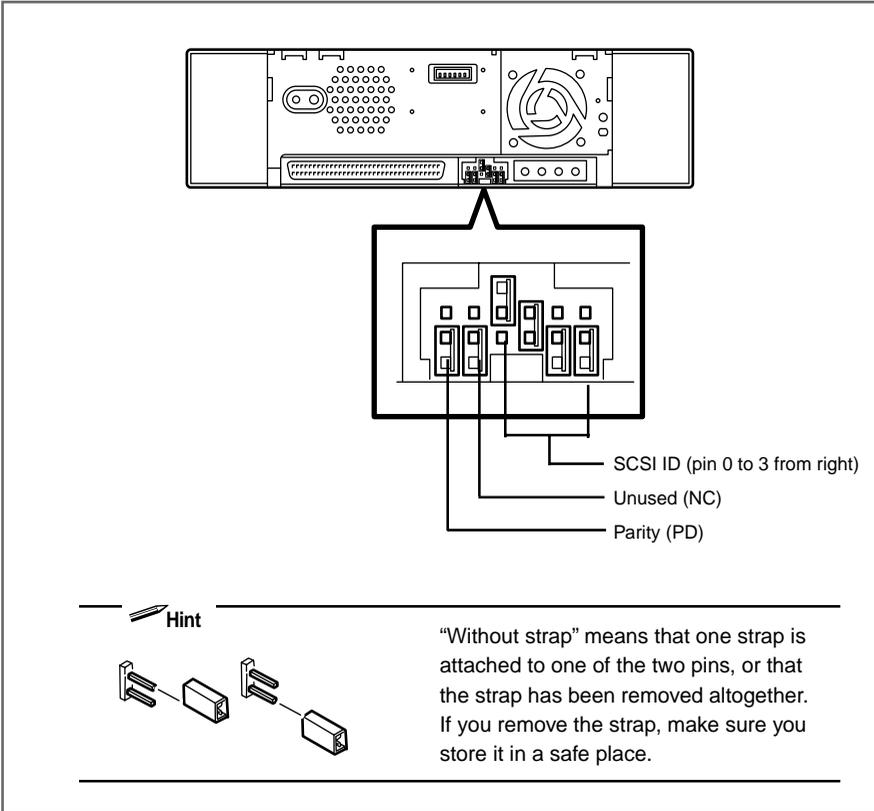
Align the Built-In AIT screw holes with the far end of the bracket adjustable screw holes. With a Phillips screwdriver, tighten the screws.



Setting the Built-In AIT - Setting with the jumper pins -

You can change the following settings with the jumper pins on the rear of the Built-In AIT.

- SCSI ID (factory-set to “ID4”)
- Parity function (factory-set to “Enabled”)

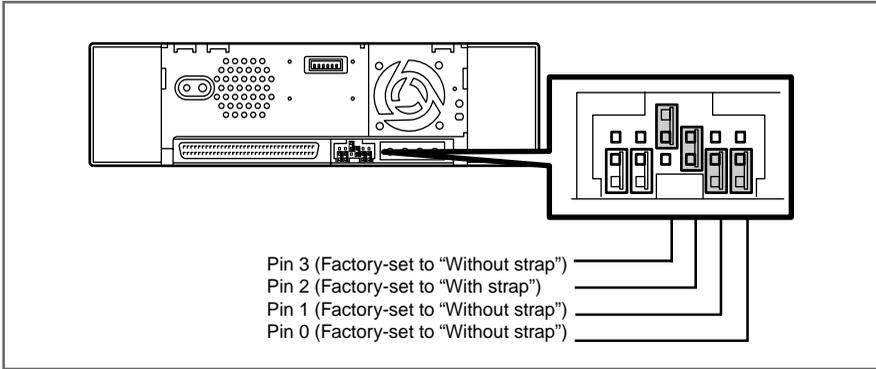


Hint

“With strap” means a status that the straps are attached to two pins. “Without strap” means a status that no strap is attached to either pin or it is attached to one of two pins.

Setting SCSI ID

Set SCSI ID which is used by the Built-In AIT. Use four jumper pins, pin 0 to pin 3, on the rear of the Built-In AIT.



Check that the Built-In AIT's SCSI ID is not duplicated with SCSI ID of other SCSI device.

SCSI ID	Pin 3	Pin 2	Pin 1	Pin0
0	X	X	X	X
1	X	X	X	○
2	X	X	○	X
3	X	X	○	○
4 ^{*1}	X	○	X	X
5	X	○	X	○
6	X	○	○	X
7 ^{*2}	X	○	○	○
8	○	X	X	X
9	○	X	X	○
10	○	X	○	X
11	○	X	○	○
12	○	○	X	X
13	○	○	X	○
14	○	○	○	X
15	○	○	○	○

○ : With strap

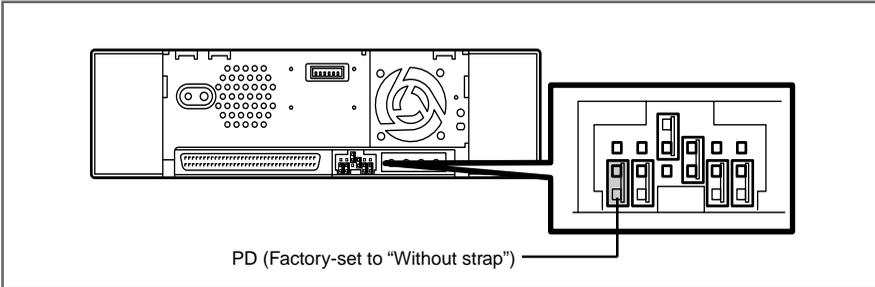
X : Without strap

^{*1} : Factory-set value

^{*2} : Do not set SCSI ID to ID7.

Setting the parity function

Set the parity function using the leftmost jumper pin on the rear of the Built-In AIT. The parity function is “Enabled” when setting “Without strap” (factory-set value). The parity function is “Disabled” when setting “With strap”.



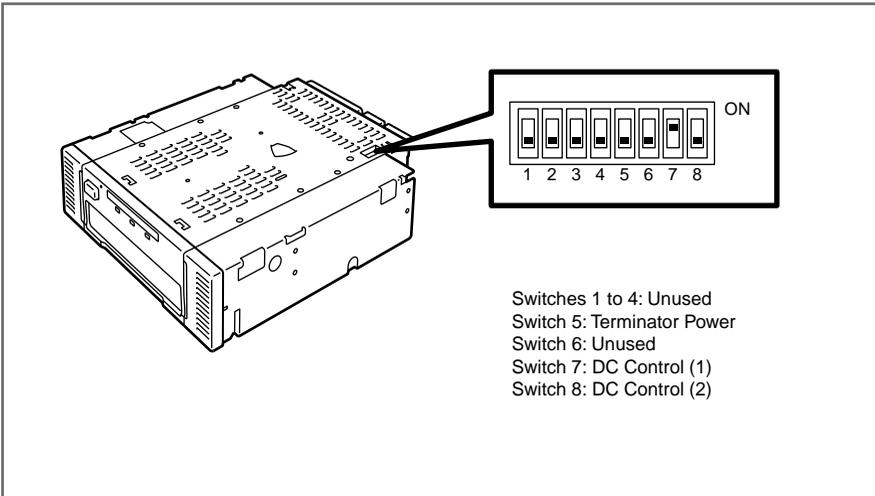
Important

For better reliability, use with “Enabled (Without strap)”.

Setting the Built-In AIT - Setting with the DIP switch -

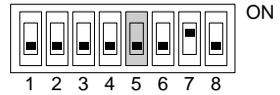
The DIP switch on the bottom of the Built-In AIT enables you to change the following settings.

- Terminator Power (Terminator power supply) (Factory-set to OFF)
- DC Control (1) (Data compression setting) (Factory-set to ON)
- DC Control (2) (Data compression setting) (Factory-set to OFF)



Setting terminator power - Terminator Power -

Set whether terminator power is supplied to the SCSI bus or not. Use Switch 5. Setting Switch 5 to OFF (factory-set to OFF) will not supply terminator power; setting Switch 5 to ON will supply terminator power.

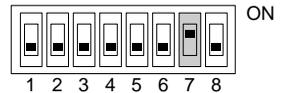


When the Built-In AIT is equipped with the N8541-28F/N8141-28AF device expansion unit and you want to use the slaved power feature, leave Switch 5 to OFF.

Setting data compression - DC Control (1) -

Set whether the Built-In AIT's data compression function is enabled or disabled.

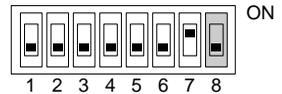
Use Switch 7. Setting Switch 7 to ON (factory-set to ON) will enable the data compression function; setting Switch 7 to OFF will disable the terminator data compression function.



Setting data compression - DC Control (2) -

Set whether control of data compression from the backup software is enabled or disabled.

Use Switch 8. Setting Switch 8 to ON will disable control of data compression from the backup application; setting Switch 8 to OFF (factory-set to OFF) will enable control of data compression from the backup software.



Mounting on the basic processing unit



Turn off the power before installing or removing the device

Always be sure to turn off the main power and unplug the power cord from the AC outlet before installing/removing this device or connecting any cables.

There is a risk of electric shock if this device is installed or removed or if any cables are connected while the power cord is still plugged into an AC outlet.

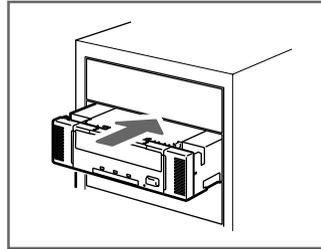
The procedure for installing the drive in a server is as follows.



Hint

Some servers require the rails to be used. For details on how to install the rails, refer to the server's operating manual.

- 1 Install the N8151-41F Built-In AIT as shown below.



Important

- **Wide to Narrow conversion connector exist on the same SCSI bus**

In case of 68 pin (wide) to 50 pin (Narrow) conversion connector exist on the same SCSI bus, the connector should detach from the SCSI cable when this AIT device connect to SCSI interface that has capability of 80Mbyte/sec (Maximum, Synchronous) transfer rate or higher. Maximum transfer rate is limit to 40Mbyte/sec (Maximum, Synchronous) if the conversion connector exist on SCSI bus.

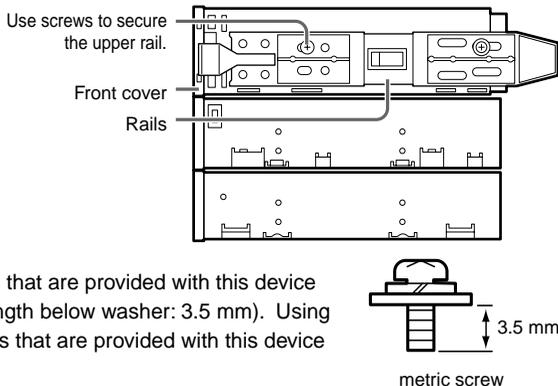
- **Single-ended devices exist on the same SCSI bus**

In case of Single-ended devices exist on the same SCSI bus, Maximum transfer rate is limit to 40Mbyte/sec (Maximum, Synchronous) even if this AIT device connect to SCSI interface that has capability of 80Mbyte/sec (Maximum, Synchronous) transfer rate or higher.

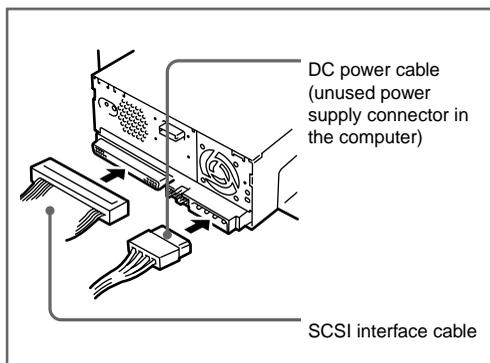
* Single-ended Devices :N8151-25F Built-In MO, N8151-12BCF Built-In DAT

Important

- When using the rails, adjust their mounting positions so that the front cover of this device is aligned with the front covers of the other standard components (such as the CD-ROM).
- The screws needed with the 5.25-in and 3.5-in devices are the same.
- Always use the screws that are provided with this device. The screws that are provided with this device are metric screws (length: 5.0 mm; length below washer: 3.5 mm). Using screws that are longer than the screws that are provided with this device could result in damage to the device.



- 2** Connect the cables to the drive as shown below.



Important

- Except as noted below, use the SCSI cable provided with the Built-In AIT when connecting it to the N8103-56F SCSI controller. Further, do not use the provided SCSI cable with any controller other than the N8103-56F.
- If you are connecting the Built-In AIT to the N8103-56F SCSI controller during installation in the N8100-755F/-756F/-784F (Express5800/120Rd-2) or N8100-658AF/-667F (Express5800/120Rc-2), use the SCSI cable that is provided with these units rather than the one provided with the Built-In AIT. With these units, there is not enough space inside the cabinet to accommodate the cable provided with the Built-In AIT.
- Confirm the SCSI ID and other settings before installation.
- The factory default setting of the SCSI ID is 4. Make sure this ID is not used by any other device in the system.
- This unit does not have a built-in terminator. When connecting this unit to the last terminal of the SCSI bus terminal, attach a terminator to the end of the SCSI cable.

- 3 Attach the cover to the basic processing unit. Plug the power cable to the outlet.
- 4 Turn on the basic processing unit.
- 5 When the SCSI bus can be set on the side of the basic processing unit, set the following on the Built-In AIT.
 - Transfer rate : 160 Mbyte/second (max., synchronous)
 - Data bus width : 16 bits (Ultra Wide SCSI, LVD/SE)
 - DISCONNECT/RECONNECT function : Enable

This device has a maximum transfer rate of 160 Mbyte/second. Set 160 Mbyte/second on basic processing units that support it, and to the next greatest transfer rate under 160 Mbyte/second on those that do not.

When using the N8103-56F SCSI board, set to 160 Mbyte/second.

Also, when the N8541-28F and N8141-28AF expansion units are connected, even if the transfer rate of the basic processing unit is 160 Mbyte/second, set it to the next greatest transfer rate under 160 Mbyte/second.

For details, see the instruction manual provided with the basic processing unit.

 **Important**

Set the maximum transfer rates as follows according to the number of devices connected to the bus and the SCSI cable length.

SCSI ID	Maximum transfer rate (Mbyte/s)	Data bus width (bit)	Maximum cable length (m)		Maximum number of devices (SCSI host + number of devices)
			Single-ended	LVD*	
Ultra 160 SCSI	160	16	4	12	16
Ultra 2 Wide SCSI	80	16	-	12	16
Ultra Wide SCSI	40	16	3	-	4
Ultra Wide SCSI	40	16	1.5	-	8
Ultra Wide SCSI	40	16	-	3	16
Fast Wide SCSI	20	16	3	3	16
Wide SCSI	10	16	6	3	8

* When the SCSI host and all devices connected to the same bus are LVD-compatible.

Handling

The following explains how to handle the N8151-41F Built-In AIT.

Setting the AIT data cartridge

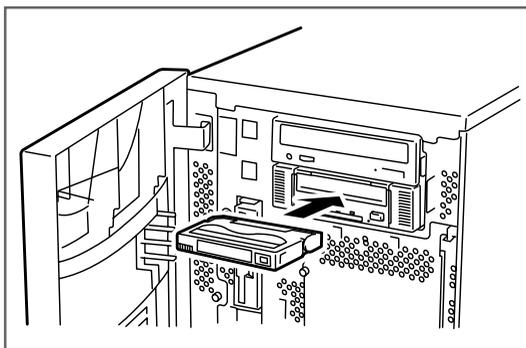


- As the data cartridge to be set in the magazine, use our “AIT Data Cartridge (model: AIT3, AIT2, AIT1)”. If you use a data cartridge of other manufacturer, a read/write error may occur.
- While setting the data cartridge, do not turn off the basic processing unit. This may cause a malfunction or damage data.

1 Turn on the basic processing unit.
Check that the driver’s TAPE
MOTION LED, CLEANING
REQUEST LED and REPLACE
TAPE LED go off.

2 Set the AIT data cartridge orienta-
tion as shown below and insert it
into the data cartridge slot.

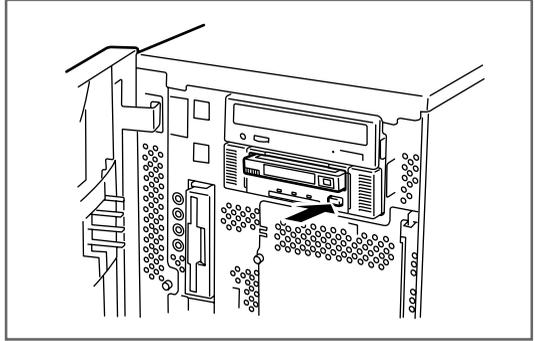
By inserting the data cartridge to the
extent, it is automatically set in the
driver and the TAPE MOTION LED
lights.



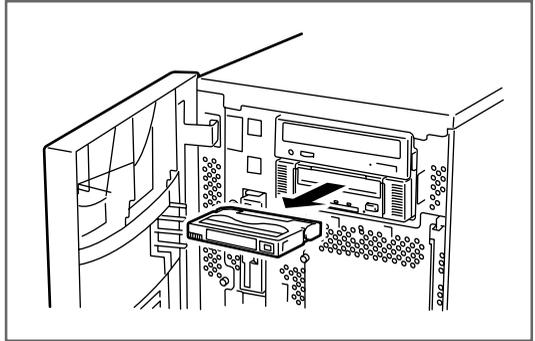
Ejecting the AIT data cartridge

Confirm that the TAPE MOTION LED is not blinking, and then press the EJECT button. The Built-In AIT starts rewinding the tape (this may take a few minutes).

When the tape is completely rewound, the data cartridge is automatically ejected from the Built-In AIT.



Remove the data cartridge from the slot.



Important

- When the TAPE MOTION LED is blinking, do not turn off the basic processing unit. This may cause a malfunction or damage data.
- To avoid malfunction, do not transport this unit with the data cartridge installed.

LED indication

Three LED on the Built-In AIT's front side signal the status of the driver and the AIT data cartridge.

LED	TAPE MOTION	CLEANING REQUEST	REPLACE TAPE
OFF	No data cartridge set.	Built-In AIT does not need cleaning.	No data cartridge error.
ON	Data cartridge set.	Built-In AIT needs cleaning.	Data cartridge error.
Blink (Slow)	Set data cartridge operating normally (low speed).	Cleaning head or cleaning cartridge tape ended.	-
Blink (Fast)	Set data cartridge operating normally (high speed).	-	-
All LED: Blink (Fast)	Malfunction		

Blink (Fast) : 0.3 s ON, 0.3 s OFF

Blink (Slowly) : 0.9 s ON, 0.3 s OFF

Reading/writing data

To read/write the data from/to the AIT data cartridge, see the instruction manual provided with the backup application.

Cleaning

To keep the driver in the best condition, regular cleaning is required.

Cleaning the read/write head

When the CLEANING REQUEST LED is lit, clean the Built-In AIT internal read/write head. Set the provided cleaning cartridge in the driver, following the procedure described in “Handling” in “Setting the AIT Data Cartridge”.

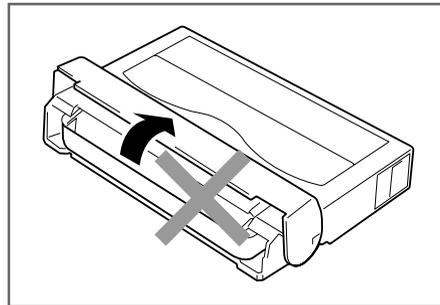
When set in the Built-In AIT, the cleaning cartridge automatically starts cleaning the head.

After cleaning, the cleaning cartridge is automatically ejected (which requires about 35 seconds after starting cleaning). Remove the cleaning cartridge.



Important

- Use our “AIT Cleaning Cartridge” to clean the Built-In AIT. If you use a cleaner of other manufacturer, a machine failure may be caused.
- Do not touch the cleaning cartridge tape surface or rewind the tape.
- You can use the cleaning cartridge for about 70 times. Even if you insert a spent cleaning cartridge or cleaning ends because the tape came to an end, the device does not eject the cleaning cartridge automatically. In this situation, press the EJECT button. Purchase a new cleaning cartridge tape.



Hint

Before using the AIT data cartridges, you should clean the read/write head using the cleaning cartridge once a week. (The cleaning frequency varies depending on the operating environment (generation of dust and dirt) and the operation frequency. When using the Built-In AIT every day in a typical office, a weekly cleaning is recommended.)

Cleaning the Built-In AIT

If the Built-In AIT looks dirty, gently wipe its surface with soft cloth moistened with water or detergent.



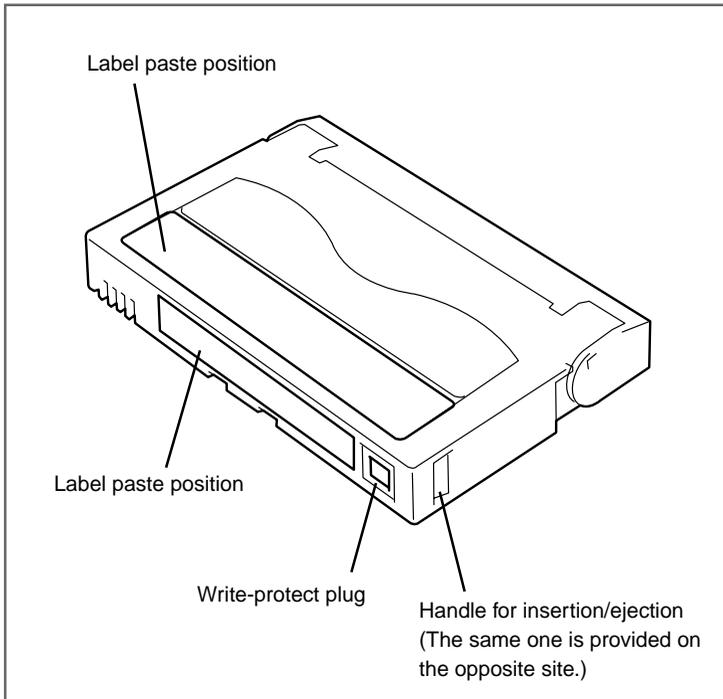
Important

Do not clean the Built-In AIT using chemicals such as benzine or thinner (volatile chemicals), which may cause the unit to be deformed or discolored. For the same reason, do not spray insecticide. If a chemical adheres to the driver surface, immediately wipe it with soft cloth moistened with water.

AIT Data Cartridge

This chapter explains how to handle the AIT data cartridge.

Data Cartridge Part Name and Function



Operation, Storage and Transportation Requirements

■ Operation requirement

- Temperature : 10 to 45 °C
- Humidity : 20 to 80 % (The maximum temperature of wet bulb is 26 °C.)
- Shelf time : If an AIT data cartridge is exposed to an environment other than the operating or storage environment, expose it to the operating environment for a longer time than the period when it is exposed to other environment (for 8 hours at maximum) before use. The temperature gradient is 10 °C/hour.

■ Storage requirement

- Temperature : 5 to 32 °C
- Humidity : 20 to 60 % (The maximum temperature of wet bulb is 26 °C.)
- Storage condition : Store an AIT data cartridge in a protective case with cover. You can place the case horizontally or vertically.

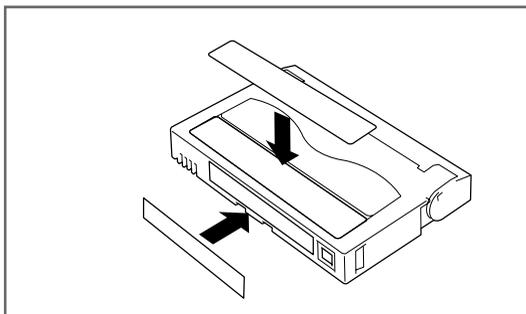
■ Transportation requirement

- Temperature : -40 to 45 °C
- Humidity : 5 to 80 % (The maximum temperature of wet bulb is 26 °C.)
- Temperature gradient : 10 °C/hour
- Transportation condition : Store an AIT data cartridge in a protective case. During transportation, pack the case so that force will not apply to the AIT data cartridge.

Label

It is recommended that you should affix a label to each AIT cartridge to associate the AIT data cartridge with the backup data for easier identification.

Label paste position



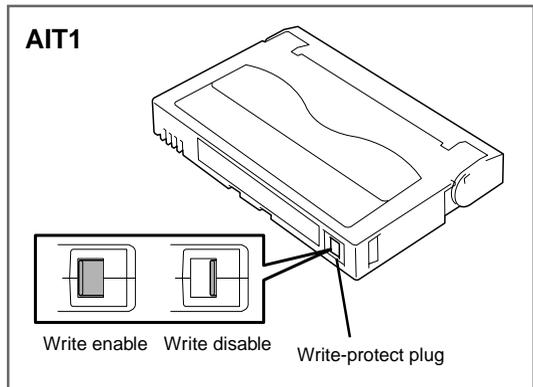
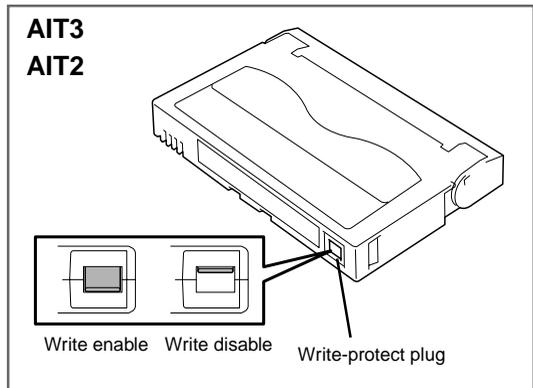
Precautions on entry to label

- To represent the data contained in the AIT data cartridge, use a label which can be easily replaced and no adhesion trace is left.
- To change the label indication, do not erase it with an eraser but peel the old label and paste a new one. (The INDEX labels are provided with the AIT data cartridge.)
- Pasting the label in the position specified in the previous section. To replace the label, peel the old label and paste a new one.
- When using a label other than the specified INDEX label, its size should be the same as the specified label.
- Enter the date when starting to use the cartridge in the provided INDEX label. It will help you check the AIT data cartridge service life.

Write-protect

By setting the write-protect plug as shown at right, the tape data can be protected.

When you do not want to erase the written data, set the plug to the “SAFE” position (write disable). To enable write to the tape, set the plug to the “REC” position (write enable).



Precautions on Handling

Operational precautions

Before use

- If the AIT data cartridge is damaged, deformed or bent, do not use it.
- If the AIT data cartridge is exposed to an environment other than the operating or storage environment, expose it to the operating environment for a longer time than the period when it is exposed to other environment (for 8 hours at maximum) before use. If temperature is greatly different between the storage site and the operating site, do not rush the cartridge into the operating environment. Leave the AIT data cartridge in temperature of the operating site with temperature gradient set to 10 °C/hour.

Mounting to the Built-In AIT

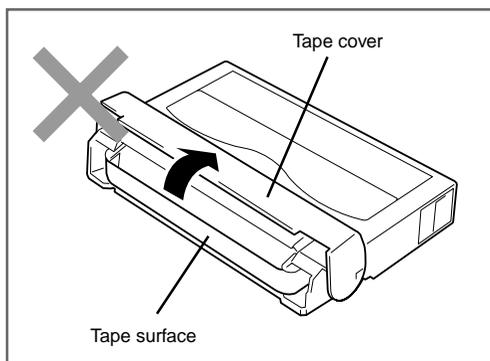
Set the cartridges as explained in “Setting the AIT data cartridge”. Close the empty protective case firmly and store it in a place free of dust and dirt.

After use

Be sure to put the AIT data cartridge that you used in the protective case and store it in a place free of dust and dirt. You can place it horizontally or vertically.

General precautions

- Do not touch a tape by hands. Do not open or close the tape cover.
- Do not bring a substance which generate magnetic close to the cartridge.
- Do not place the cartridge in a place subject to direct sunlight or a place near a heater.
- Do not apply strong shock.
- Avoid handling the cartridge while eating or drinking. Take due consideration not to adhere thinner or alcohol to the cartridge.
- Insert the cartridge to the Built-In AIT gently and carefully.



Usage Inhibition Standard

If an AIT data cartridge that you are using is in the case below, you must replace it.

- When the AIT data cartridge is given a strong shock, for example, when falling, and damaged.
- When the recording surface is contaminated with liquid, such as soft drink, coffee and tea, detergent, metal chips or cigarette ash.



Important

If you insert an AIT data cartridge in such a condition into the Built-In AIT, the read/write head or the driver itself may be damaged or contaminated, causing a machine failure.

Also, if you insert a new AIT data cartridge into the Built-In AIT whose head is contaminated or scratched and you do not know about it, the AIT data cartridge may be contaminated or damaged. In this way, damage is expanding.

Service Life

The service life of the AIT data cartridge varies greatly depending on temperature and humidity in the operating/storage environment, dust and dirt, and head abrasion condition.

You can judge its service life in the following sequence.

- Assign a management number to a new AIT data cartridge. Enter the number in the AIT data cartridge label.
- Create the AIT data cartridge management book. Record the date when each AIT data cartridge is used and estimate how many years and how often each cartridge is used.
- Examine the AIT data cartridge management book and index label regularly. Discard the cartridges having low reliability, for example, those which generate write/read errors.

The tape magnetic layer is composed of chemicals and it becomes deteriorated as the time elapses.

Although the tape service life, which is determined by this deterioration, varies greatly depending on the tape storage environment (humidity, temperature), the tape is generally serviceable for about 3 years since you purchase it.

Storing Important Data

When storing important data or programs, it is strongly recommended that you should prepare and store the master tape and copy (backup) tape just in case.

Further, we recommend that you verify backup software when saving, and check saved data. For details on verification, refer to the instruction manual for the backup software you are using.

By doing this, if one of the tapes causes a read error due to dust or dirt, you can recover the data from the other tape. Thus, you can prevent loss of important data and programs.

Managing 3-generation Data

To store the data on the disk, you should manage the data in the three generations.

To manage the 3-generation data, use three tapes (A, B, C). On the first day, store the data on the disk in tape A. On the second day, store the data in tape B. On the third day, store the data in tape C.

This method allows you to protect your important data. For example, if tape C generates a read error, you can use tape B to recover the data. If tape B generates a read error, you can use tape A to recover the data.

Data cartridge storage

Always store data cartridges in a clean location under the specified storage conditions.

Enabling the write-protect feature is recommended when storing data cartridges.

When storing data cartridges for an extended period of time, data should be read periodically in order to ensure that restoration from backup data is possible at all times.

Storing data cartridges in a different location from the system is recommended. If both master and spare data cartridges are kept, storing each in a different location is recommended.

Specifications

The N8151-41F Built-In AIT has the following specification:

■ Performance

Memory capacity	100 Gbyte (In the compression mode: 200 Gbyte) when using AIT3 Data Cartridge: tape length 230 m 50 Gbyte (In the compression mode: 100 Gbyte) when using AIT2 Data Cartridge: tape length 230 m 35 Gbyte (In the compression mode: 70 Gbyte) when using AIT1 Data Cartridge: tape length 230 m 25 Gbyte (In the compression mode: 50 Gbyte) when using AIT1 Data Cartridge: tape length 170 m The value in the compression mode is obtained when the compression efficiency is X2. The compression efficiency varies with the data pattern.
Bit error code	10^{-17} or less
Data transfer speed (TAPE)	AIT1: 8 Mbyte/second (in the non-compression mode) AIT2: 12 Mbyte/second (in the non-compression mode) AIT3: 12 Mbyte/second (in the non-compression mode)
Burst data transfer speed (SCSI)	160 Mbyte/second (max, synchronous) Depending on your connection environment, it may not be possible to set 160 Mbyte/seconds.
Initialize time	Less than 5 seconds
Load time	Less than 14 seconds
Unload time	Less than 25 seconds
Rewind time	Less than 105 seconds

■ Environmental requirement

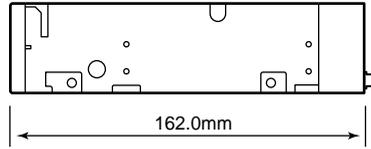
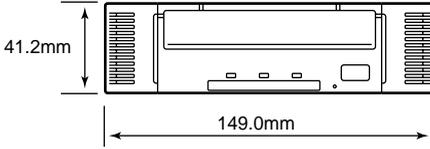
During operation	Temperature: 10 °C to 40 °C Humidity: 20% to 80% (no dew condensation allowed) Highest dry bulb temperature: 26 °C
During non-operation	Temperature: -40 °C to 70 °C Humidity: 5% to 95% (no dew condensation allowed)

■ Power supply specification

Voltage	5V±5%	12V±10%
Current (Typ.)	2.5A	0.4A
Current (Max.)	2.9A	2.0A

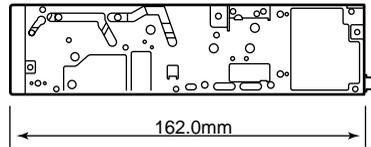
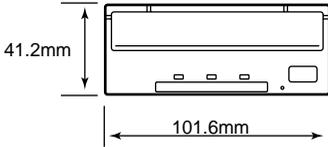
■ Dimensions, weight

N8151-41F 5.25 in device



Weight 0.98 kg

N8151-41F 3.5 in device



Weight 0.75 kg

Customer's Application Sheet

Use this sheet as a note in which the information required for maintenance and management of the N8151-41F Built-In AIT.

Item	Record
Basic processing unit model name	
Operating system (OS) (name, version, service pack/batch application)	
Backup software (name, version service pack/batch application)	
SCSI bus configuration (SCSI ID/device on the same bus) Built-In AIT installation environment	
Built-In AIT installation environment (temperature, humidity, dust)	
Cartridge type (manufacturer, EF model code)	
Cleaning cartridge type	
Cleaning cartridge usage (method of managing cleaning frequency, operation frequency and starting month)	
Cartridge usage (method of managing cleaning frequency, operation frequency and starting month)	
Cartridge management	

N8151-41F
Built-In AIT Operating Manual

First Edition, January 2002
Second Edition, February 2002

NEC Corporation
5-7-1 Shiba, Minato-ku, Tokyo
Tel. (03) 3454-1111 (Main switchboard)

©2002 NEC Corporation

No copying or modifying without permission of NEC Corporation.
The contents of this document may be changed without notice.

